

理科調査資料 作成の観点

書名	<div style="font-size: 2em; letter-spacing: 0.5em;">○○○○ ○○○○○</div>	発行者番号 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">発行者名</div>
項目		
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <p>○自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能が身に付くようにするために、どのような工夫がされているか。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <p>○観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養うために、どのような工夫がされているか。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <p>○自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養うために、どのような工夫がされているか。</p> <p><科学的に探究する学習活動の充実が図られるための工夫></p> <p>○「理科の見方・考え方」を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどの科学的に探究する学習活動が充実するために、どのような工夫がされているか。</p> <p><日常生活や他教科等との関連を図るための工夫></p> <p>○理科で学習する規則性や原理などが日常生活や社会で活用されていることに気付かせたり、各教科と関連する内容や学習時期を捉えやすくしたりするために、どのような工夫がされているか。</p>	
資 料	<p>○学習効果を高めるため、資料にどのような工夫が見られるか。</p> <p>○挿絵、写真、図表などの位置と本文との関連に、どのような工夫が見られるか。</p>	
表記・表現	<p>○記号、用語、単位などの使い方に、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○教材や内容の文章表現の難易度について、生徒の発達の段階に応じてどのような工夫が見られるか。</p>	
総 括	(全体的な特徴、その他)	

書名 項目	<h1>新しい科学</h1>	2 東書
内容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○各節に「課題」「課題に対する結論を表現しよう」が示されている。各単元の最初と随所に既習事項が示され、章末や単元末、デジタルコンテンツで重要語句や基本事項を確認している。観察・実験では手順をステップに分け図や写真を用いて示し、観察・実験の前及び巻末資料に「基礎操作」を設けている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○観察・実験では、「結果の見方」と「考察のポイント」で結果・考察の視点を示している。また、巻頭のマンガや各節ごとのフローチャートで探究の進め方を示している。更に、各節の結論などでは、自分の言葉でまとめさせることで、思考力や表現力を育成する場面を示している。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻頭で探究の流れを示し、その中で教科書の使い方を説明している。「科学のミカタ」や「学びをいかして考えよう」などの項目があり、主体的に学習させるための工夫をしている。また、生命の尊さや自然環境の大切さについて生徒自らが考える場面を設け、環境問題に関心がもてるようにしている。 <p><科学的に探究する学習活動の充実が図られるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○探究の過程がマークと脚注のフローチャートで示されており、探究的な展開を基本とした構成になっている。「問題発見」「構想」が配置されており、「理科の見方・考え方」を働かせ、見通しをもって観察・実験ができるように配慮されている。 <p><日常生活や他教科等との関連を図るための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「つながる科学」において、日常生活や社会との関わりを紹介し、理科の有用性が実感できるよう工夫している。算数・数学、社会、保健体育、技術・家庭、道徳科で学習した内容について、「〇〇で学ぶこと」とマークを付け、教科間の関連を図りやすいよう配慮されている。 	
資料	<ul style="list-style-type: none"> ○日常生活や社会との関連がわかる「つながる科学」や科学技術を紹介した「from Japan 世界につながる科学」を掲載し、科学を学ぶ意義や有用性を伝える工夫をしている。 ○動画による内容解説や練習ドリル、他教科との関連などを示した、WEBサイトを活用したデジタルコンテンツ（Dマークコンテンツ）の資料がある。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○本文などにUDフォントを使用し、重要語句や式は太字のゴシック体を使用している。重要語句は振り仮名を付け、式は単位を付けて下地の色を変えて表記している。 ○マークやキャラクターのコメント・会話をを用いて、思考の手助けを行う工夫をしている。また、領域ごとに課題や実験などを色分けして表示している。 	
総括	<ul style="list-style-type: none"> ○巻頭で探究の流れや教科書の使い方などを示している。単元配列は、各単元の指導時期や内容の関連性を踏まえた配置となっており、生徒の科学的概念の形成に配慮されている。 ○単元末に「学習内容の整理」「確かめと応用」「確かめと応用 活用編」を示している。 ○巻末には「自由研究」「基礎操作」などがまとめられている。巻末に自分で組み立てる地学単元のペーパークラフトが付けられている。 	

書名 項目	<h1>理科の世界</h1>		4 大日本
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各節（各項）に課題が示されている。各単元の最初と随所に既習事項が示され、章末や単元末で重要語句や基本事項を確認している。観察・実験では手順を図や写真を用いて示し、観察・実験の近くや巻末資料の「基本操作」があり、ウェブコンテンツ動画も設けている。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 観察・実験では、「結果の整理」と「結果から考えよう」で結果・考察の視点を示している。また、巻頭の「理科の学習の進め方」で探究の流れや方法を示している。更に「振り返ろう」などでは、自分の言葉でまとめさせることで、思考力や表現力を育成する場面を示している。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 巻頭で理科の学習の進め方を示し、その中で教科書の使い方を説明している。「問題を見つけよう」や「やってみよう」などの項目があり、主体的に学習させるための工夫をしている。また、自然環境に関する資料に「環境マーク」を付け、環境問題に関心をもてるようにしている。 <p>＜科学的に探究する学習活動の充実を図られるための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 探究の過程がマークで示され、重点項目は色分けされており、探究的な展開を基本とした構成になっている。「問題を見つけよう」「計画を立てよう」が配置されており、「理科の見方・考え方」を働かせ、見通しをもって観察・実験ができるように配慮されている。 <p>＜日常生活や他教科等との関連を図るための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「くらしの中の理科」において、日常生活や社会との関わりを紹介し、理科の有用性が実感できるよう工夫している。国語、算数・数学、美術、保健体育、技術・家庭、英語で学習した内容について、「つながる」とマークを付け、教科間の関連を図りやすいよう配慮されている。 		
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○ 日常生活での科学を紹介した「くらしの中の科学」、「Science Press」や職業を紹介した「Professional」を掲載し、科学を学ぶ意義や有用性を伝える工夫をしている。 ○ 専用アプリ「COCOAR 2」のARを用いた動画による内容説明、補助説明やシミュレーションなどを示した、WEBサイトを活用したデジタルコンテンツがある。 		
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本文などにUDフォントを使用し、重要語句や式は太字のゴシック体を使用している。重要語句は振り仮名を付け、式は単位を付けて表記している。 ○ マークやキャラクターのコメント・会話をを用いて、思考の手助けを行う工夫をしている。また、全領域で課題や実験などの色を統一して表示している。 		
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○ 巻頭で学習の進め方や教科書の使い方などを示している。単元配列は、小学校との関連を重視した配置となっており、観察・実験のしやすい時期や、学年による理科室使用の重なりなどに配慮されている。 ○ 単元末に「まとめ」「単元末問題」「読解力問題」を示している。 ○ 巻末には「自由研究」「基本操作」などがまとめられている。3年巻末の「学習のまとめ」では、1～3年の復習ができるようになっている。 		

書名 項目	<h1>中学校科学</h1>	1 1 学 図
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 1時間ごとに「この時間の課題」「この時間のまとめ」が示されている。各単元の最初と随所に既習事項が示され、章末のQRコード教材で、重要語句や基本事項を確認している。観察・実験では手順を写真を用いて示し、観察・実験の近くに「基本操作」を設けている。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 観察・実験では、「結果」と「考察」で結果・考察の視点を示している。また、巻頭の「理科のトリセツ」で探究の進め方や方法を示している。更に、「しっかりふり返り」などでは、自分の言葉でまとめさせることで、思考力や表現力を育成する場面を示している。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 巻頭の「理科のトリセツ」の中で、理科の学習の進め方と教科書の使い方を説明している。各章の始めと終わりに「Can-Do List」があり、主体的に学習させるための工夫をしている。また、「Can-Do List」に生命尊重や環境保全の話題を掲載し、環境問題に関心がもてるようにしている。 <p>＜科学的に探究する学習活動の充実が図られるための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 探究の過程がマークで示され、マークが矢印でつながっており、探究的な展開を基本とした構成になっている。「気づき」「計画」が配置されており、「理科の見方・考え方」を働かせ、見通しをもって観察・実験ができるように配慮されている。 <p>＜日常生活や他教科等との関連を図るための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「資料」において日常生活や社会との関わりを紹介し、理科の有用性が実感できるよう工夫している。国語、数学、技術で学習した内容について、「つながり・○○」とマークを付け、教科間の関連を図りやすいよう配慮されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○ 科学と関連した働く人を紹介する「ミッションX」や、日常生活の科学や歴史を紹介した「サイエンスカフェ」を掲載し、科学を学ぶ意義や有用性を伝える工夫をしている。 ○ 動画による内容解説やプログラミング教材、練習問題を示した、QRコードを活用したデジタルコンテンツの資料がある。 	
表記・ 表現	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本文などにUDフォントを使用し、重要語句や式は太字のゴシック体を使用している。重要語句は振り仮名を付け、式は単位を付けて下地の色を変えて表記している。 ○ マークやキャラクターのコメント・会話をういて、思考の手助けを行う工夫をしている。また、全領域で見出しや実験などの色を統一して表示している。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○ 巻頭で理科を学ぶ意義や教科書の使い方などを示している。単元配列は、想定する年間指導計画に沿って系統的に配置されており、初任の教師が構成を理解しやすいように配慮されている。 ○ 単元末に「学びの深め方」「読解力問題」を示している。 ○ 巻末の内容は学年ごとに異なり、「実験器具の操作」「周期表」などがまとめられている。巻末にホワイトボードとして使えるアイデアボードが付けられている。 	

書名 項目	自然の探究 中学理科	17 教 出
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <p>○ 各節に「課題」「結論」が示されている。各章の最初と随所に既習事項が示され、章末や単元末で重要語句や基本事項を確認している。観察・実験では手順をステップに分け、図や写真を用いて示し、観察・実験の近く及び巻末資料に「基礎技能」を設けている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <p>○ 観察・実験では、「結果」と「考察」で結果・考察の視点を示している。また、巻頭の「探究の進め方」で、探究の流れや方法を示している。更に、「活用しよう」や「考えよう」などでは、自分の言葉でまとめさせることで、思考力や表現力を育成する場面を示している。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <p>○ 巻頭で探究の進め方を示し、その中で理科の学習の流れを説明している。「やってみよう」や「チャレンジ」などの項目があり、主体的に学習させるための工夫をしている。また、自然保護や生命尊重に関わる内容を「ハローサイエンス」で紹介し、環境問題に関心をもてるようにしている。</p> <p><科学的に探究する学習活動の充実が図られるための工夫></p> <p>○ 探究の過程がマークで示され、紙面の両端に色帯が付けられており、探究的な展開を基本とした構成になっている。「疑問」「計画」が配置されており、「理科の見方・考え方」を働かせ、見通しをもって観察・実験ができるように配慮されている。</p> <p><日常生活や他教科等との関連を図るための工夫></p> <p>○ 「ハローサイエンス」において、日常生活や社会との関わりを紹介し、理科の有用性が実感できるよう工夫している。算数・数学で学習した内容について、「ブリッジ算数」「ブリッジ数学」とマークを付け、教科間の関連を図りやすいよう配慮されている。</p>	
資 料	<p>○ 科学技術と社会生活、自然、歴史、職業との関わりを示した「ハローサイエンス」を掲載し、科学を学ぶ意義や有用性を伝える工夫をしている。</p> <p>○ 動画による補足説明や科学に関する情報を示した、QRコードを活用したデジタルコンテンツ（まなびリンク）の資料がある。</p>	
表記・表現	<p>○ 本文などにUDフォントを使用し、重要語句や式は太字のゴシック体を使用している。重要語句は色を変えて振り仮名を付け、式は単位を付けて下地の色を変えて表記している。</p> <p>○ マークやキャラクターのコメント・会話を用いて、思考の手助けを行う工夫をしている。また、全領域で課題や実験などの色を統一して表示している。</p>	
総 括	<p>○ 巻頭で理科を学ぶ意義や探究の進め方などを示している。単元配列は、各単元の指導時期や学習内容のつながりを考慮した配置となっており、地域や学校の実態に応じた指導計画を立てられるように配慮されている。</p> <p>○ 単元末に「要点と重要用語の整理」「基本問題」を示している。</p> <p>○ 巻末には「学年末総合問題」「基礎技能」などがまとめられている。巻末に実習や観察で用いる厚紙のカードやシートが付けられている。</p>	

書名 項目	<h1 style="text-align: center;">未来へひろがるサイエンス</h1>	61 啓林館
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 各節に課題が示されている。QRコンテンツや各章の最初と随所に既習事項が示され、章末や単元末、QRコンテンツで重要語句や基本事項を確認している。観察・実験では手順をステップに分け、図や写真を用いて示し、観察・実験の近くに「観察・実験のスキル」やQRコンテンツの動画を設けている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 観察・実験では、「結果」と「考察」で結果・考察の視点を示している。また、巻末の「探Qシート」を用いて、探究の進め方や方法を示している。更に、「探Q実習」や「探Q実験」、「表現してみよう」などでは、自分の言葉でまとめさせることで、思考力や表現力を育成する場面を示している。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 巻頭で探究の過程を示し、その中で教科書の使い方を説明している。各単元に一つ「探Q実験」を設定し、巻末の「探Qシート」を活用して主体的に学習させるための工夫をしている。また、自然環境に関する題材に「環境マーク」を付け、環境問題に関心をもてるようにしている。 <p><科学的に探究する学習活動の充実が図られるための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 探究の過程がマークで示され、マークが帯でつながっており、探究的な展開を基本とした構成になっている。「疑問」「考えてみよう」が配置されており、「理科の見方・考え方」を働かせ、見通しをもって観察・実験ができるように配慮されている。 <p><日常生活や他教科等との関連を図るための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 科学コラム「〇〇ラボ」において、日常生活や社会との関わりを紹介し、理科の有用性が実感できるよう工夫している。国語、社会、算数・数学、家庭、英語で学習した内容について、「〇〇と関連」とマークを付け、教科間の関連を図りやすいよう配慮されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○ 科学と部活、職業、食生活、自然との関連を示した「科学コラム」や、科学史に関する話題を示した「科学史」を掲載し、科学を学ぶ意義や有用性を伝える工夫をしている。 ○ 動画による内容説明、既習内容や学習内容の確認を示したQRコードを活用したデジタルコンテンツの資料がある。 	
表記・ 表現	<ul style="list-style-type: none"> ○ 本文などにUDフォントを使用し、重要語句や式は太字のゴシック体を使用している。重要語句は振り仮名を付け、式は単位を付けて下地の色を変えて表記している。 ○ マークやキャラクターのコメント・会話をを用いて、思考の手助けを行う工夫をしている。また、領域ごとに実験などを色分けして表示している。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○ 巻頭で探究の過程や教科書の使い方などを示している。単元配列は、同一学年内での単元指導順序の入れ替えが自由に行えるような配置になっており、2学期制や3学期制にも対応できるように配慮されている。 ○ 単元末に「学習のまとめ」「力だめし」「みんなで探Qクラブ」を示している。 ○ 巻末には「学年末総合問題」「サイエンス資料」などがまとめられている。巻末に各単元の「探Qシート」が付けられている。 	

理科 調査資料 2

○分量について

内容	学年	東書	大日本	学図	教出	啓林館
1 総ページ数 ※ 目録に記載されたページ数	1年	272	294	274	320	316
	2年	322	318	290	338	332
	3年	338	374	282	376	364
2 個人研究課題等の例示数	1年	15	8	2	7	5
	2年	16	8	2	4	5
	3年	15	8	2	4	5

○領域別教材数等について

内容	学年	東書	大日本	学図	教出	啓林館	
1 小単元数	1年	13	14	12	16	13	
	2年	15	14	12	14	15	
	3年	17	18	12	21	19	
2 領域別観察・実験等数	1年	身近な物理現象	6	5	8	6	6
		身の回りの物質	7	5	6	7	7
		いろいろな生物とその共通点	6	6	4	5	3
		大地の成り立ちと変化	5	7	6	5	5
	2年	電流とその利用	7	9	9	7	9
		化学変化と原子・分子	9	9	9	7	8
		生物の体のつくりと働き	10	9	9	8	7
		気象とその変化	4	4	6	3	5
	3年	運動とエネルギー	6	6	12	6	8
		化学変化とイオン	8	7	9	6	7
		生命の連続性	3	3	5	2	2
		地球と宇宙	7	5	7	5	5
		科学技術と人間、自然と人間	5	1	2	4	4

○その他

内容	学年	東書	大日本	学図	教出	啓林館
1 読み物などの資料数	1年	32	47	10	39	38
	2年	55	70	4	52	50
	3年	57	55	8	54	54
2 埼玉県に関する資料 (写真・図)の数	1年	2	4	3	2	2
	2年	1	2	3	2	4
	3年	6	1	3	3	0

○日常生活や他教科等との関連についての記載の例

	記載の数	特徴的な例
東書	67	身のまわりは岩石であふれている(1年)さびを防ぐくふう(2年) 雨のしずくは、どこまで速くなる?(3年)
大日本	74	万葉集から見る植物(1年)くらしを支えるセンサー技術(2年)歴史と天文学(3年)
学図	27	意外と身近にある有毒な気体(1年)食品の酸化を防ぐ=劣化を防ぐ(2年) 3力のつりあい(3年)
教出	41	牛乳は水溶液か?(1年)不完全燃焼(2年)情報モラル(3年)
啓林館	48	こおらせたスポーツ飲料(1年)野菜や果物の消化酵素(2年)地球の自転と時刻(3年)

音楽科（一般）調査資料 作成の観点

書名 項目	○○○○ ○○○○○	発行者番号 発行者名
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現をするために必要な技能を身に付ける上で、題材の設定、題材構成、教材の配置など、どのような工夫がされているか。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにどのような工夫がされているか。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培うためにどのような工夫がされているか。 </p> <p> <音楽活動の基礎的な能力を伸ばす工夫> ○歌唱教材の選択において、音域や演奏の難易度等を含めて、どのような工夫が見られるか。 ○創作教材の選択において、無理なく取り組ませるためにどのような工夫が見られるか。 </p> <p> <生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫> ○生活や社会の中の音や音楽の働きの視点や、音楽文化を継承、発展、創造していかうとする態度の育成のためにどのような工夫がされているか。 </p>	
資 料	<p> ○学習意欲を高めたり、発想を広げたりするためにどのような工夫が見られるか。 ○挿絵・写真・図表等の資料のレイアウトにはどのような工夫が見られるか。 </p>	
表記・表現	<p> ○表現教材や鑑賞教材の譜例の使い方など、楽譜の提示方法にはどのような工夫が見られるか。 ○音符、休符、記号、音楽に関わる用語の取り扱いにはどのような工夫が見られるか。 </p>	
総 括	(全体的な特徴、その他)	

書名 項目	中学音楽 音楽のおくりもの	17 教出
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○「指揮をしてみよう」では、表現の基礎的な技能の習得や創意工夫して表現するための解説が示され、発達の段階に応じて習得できるように工夫されている。 ○「Let's Sing!」では、歌唱表現の基礎的な技能や創意工夫して表現するための解説が示され、教科書に書き込みながら学習できるよう工夫されている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○各教材の「ACTIVE!」、「Let's Sing!」では、曲の要素や雰囲気について直接書き込み、思考が深められるよう工夫されている。 ○各学年の「どんな特徴があるかな?」では、曲の特徴を言葉で表現し、話し合う構成になっている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○「話し合おう」では、音楽表現を主体的に工夫する過程を重視した具体的な内容が取り上げられ、自他の敬愛や協力を重んずる態度が養われるよう配慮されている。 </p> <p> <音楽活動の基礎的な能力を伸ばす工夫> ○歌唱教材では、楽曲分析の手順やヒントが示されており系統的・発展的に学べるよう工夫されている。 ○創作教材では、テーマやことばをリズムと関連付け、まとまりのある作品ができるように工夫されている。 </p> <p> <生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫> ○「私たちのくらしと音楽」では、アウトリーチ、教育活動、音楽療法について取り上げ、意識的に音楽の意味や価値について考えることができるように工夫している。 ○MP3や著作権について示し、作品や著作権の創造性を尊重する態度を形成し、音楽文化の継承、発展、創造を支えることの理解を促す工夫がされている。 </p>	
資 料	<p> ○鑑賞教材では、特徴を理解するための書き込み欄や対比表を使い、考えるポイントが掲載されている。 ○巻末では、様々な音楽や楽器の説明が、写真を加え整理して掲載されている。 ○二次元コード「まなびリンク」には、教科書の内容にリンクした動画や音声等が準備されている。 </p>	
表記・表現	<p> ○本文などには、UDフォントが使用されている。 ○目次や各ページの見出しは表現、創作、鑑賞ごとに色分けされて表記されている。 ○教材に関連する音楽用語や記号が該当ページに示され、巻末の「楽典」には、掲載ページも示されている。発展として「音ってなあに」、「音の三要素」が掲載されている。 </p>	
総 括	<p> ○表現と鑑賞がバランスよく配置され、「学びのユニット」で年間の学習内容を関連付けて示している。 ○様々な音楽について比較して学習し、共通性と固有性を考え、音楽文化の理解を深める工夫がされている。 </p>	

書名 項目	<h1>中学生の音楽</h1>	27 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">教 芸</div>
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○「指揮をしてみよう！」では、表現の基礎的な技能の習得や創意工夫して表現するための解説が示され、発達の段階に応じて習得できるように工夫されている。 ○「My Voice」では、発達の段階に応じた歌い方が紹介されている。また、民謡・長唄では、絵譜を使って発声の特徴が示されている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○各教材では音楽を知覚する際の焦点が示されている。また、各学年の「音楽を形づくっている要素」では、教材の譜例と要素が説明されている。 ○「深めよう！音楽」では、どのように演奏したいのか言葉で表現し、書き込めるようになっている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○「深めよう！音楽」では、音楽表現を主体的に工夫する過程を重視した具体的な内容が取り上げられ、自他の敬愛や協力を重んずる態度が養われるよう配慮されている。 </p> <p> <音楽活動の基礎的な能力を伸ばす工夫> ○歌唱教材では、曲の構成を細かく分析できるような表を使い、創意工夫を生かせるように配慮されている。 ○創作教材「My Melody」では、個の基礎力を習得し、「Let's Create!」では、協働的な創作活動を体験し、発展的な学習ができるように工夫されている。 </p> <p> <生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫> ○「生活や社会の中の音楽」では、音楽の役割、アウトリーチ、仕事と音楽等を取り上げ、意識的に音楽の意味や価値について考えることができるように工夫している。 ○音楽メディアの変遷や著作権等を示し、作品や著作権の創造性を尊重する態度を形成し、音楽文化の継承、発展、創造を支えることの理解を促す工夫がされている。 </p>	
資 料	<p> ○各教材のページに学習目標・音楽を形づくっている要素が示されている。 ○「社会を映し出す音楽」「耳でたどる音楽史」等の資料では、実際に音で確認ながら全体をイメージできるように工夫されている。 ○QRコードが示されている教材では、動画や音声などの情報を視聴、閲覧することができる。 </p>	
表記・ 表現	<p> ○本文などには、UDフォントが使用されている。 ○目次や各ページの見出しは表現、創作、鑑賞ごとに色分けされて表記されている。 ○教材に関連する音楽用語や記号が該当ページに示され、巻末には「音楽の約束」として楽典資料が掲載されている。 </p>	
総 括	<p> ○表現と鑑賞がバランスよく配置され、「学びの地図」で年間の学習内容が見通せるように示している。 ○中学生が地元の祭や芸能に携わる場面を紹介し、郷土の音楽文化を継承していこうとする態度の育成のための工夫がされている。 </p>	

音楽科（一般） 調査資料 2

○分量について

内容	学年	教出	教芸
1 総ページ数 ※ 目録に記載されたページ数	1年	92	98
	2・3年上	92	98
	2・3年下	92	98

○学習活動別教材数について

内容	学年	教出	教芸
1 楽譜の付いた表現（歌唱）教材の数	1年	19	25
	2・3年上	18	22
	2・3年下	18	18
2 表現（創作）教材の数	1年	2	3
	2・3年上	2	3
	2・3年下	2	2
3 主となる鑑賞題材の数	1年	6	7
	2・3年上	9	7
	2・3年下	9	9
4 例示している鑑賞教材の数 ※ 民謡等はそれぞれカウント ※ 作曲家紹介や年表等の楽曲は除く	1年	49	72
	2・3年上	31	64
	2・3年下	18	76

○その他

内容	学年	教出	教芸
我が国や郷土の伝統音楽の扱い（埼玉の伝統音楽の扱いも含めて）	1年	<ul style="list-style-type: none"> 日本の民謡は、日本地図を用いて示している。（地図上紹介、埼玉県はなし）「ソーラン節」と「かりぼし切り歌」を表現活動で取り上げている。 箏と尺八を取り上げ、箏では表現活動につなげている。 アジアと日本の声による様々な表現を写真と共に紹介している。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本の民謡は、日本地図を用いて示している。（地図上紹介「秩父音頭」）「ソーラン節」について、演奏者からのアドバイスが記載されている。 雅楽と箏曲が取り上げられ、「越天楽」の唱歌の体験コーナーがある。 アジアの諸民族の音楽が、日本との聴き比べの視点とともに示されている。
	2・3年上	<ul style="list-style-type: none"> 雅楽と能が取り上げられ、唱歌と謡の体験コーナーがあり、演奏のポイントが記載されている。 日本各地の音楽や芸能について取り上げ、写真と共に特徴が示されている。秩父夜祭が掲載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 歌舞伎と文楽が取り上げられ、長唄と義太夫節の体験コーナーには演奏者のアドバイスが記載されている。 日本各地に伝わる郷土の祭や芸能とその特徴が、写真で示されている。（秩父祭の屋台行事と神楽）
	2・3年下	<ul style="list-style-type: none"> 歌舞伎と文楽が取り上げられている。歌舞伎では、長唄の体験コーナーがある。 西洋の音楽と日本の音楽を比較して鑑賞するコーナーがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 尺八、能が取り上げられ、謡の体験コーナーには演奏者のアドバイスが記載されている。 郷土の祭や芸能が、中学生が受け継ぐという視点で示されている。久喜市の鷲宮催馬楽神楽を扱っている。

音楽科（器楽）調査資料 作成の観点

書名	<div style="font-size: 2em; letter-spacing: 1em;">○○○○ ○○○○○</div>	発行者番号 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">発行者名</div>
項目		
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <p>○曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現をするために必要な技能を身に付ける上で、題材の設定、題材構成、教材の配置など、どのような工夫がされているか。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <p>○音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにどのような工夫がされているか。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <p>○音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培うためにどのような工夫がされているか。</p> <p>＜音楽活動の基礎的な能力を伸ばす工夫＞</p> <p>○器楽教材の選択において、音域や演奏の難易度等を含めて、どのような工夫が見られるか。</p> <p>＜生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫＞</p> <p>○生活や社会の中の音や音楽の働きの視点や、音楽文化を継承、発展、創造していこうとする態度の育成のためにどのような工夫がされているか。</p>	
資 料	<p>○学習意欲を高めたり、発想を広げたりするためにどのような工夫が見られるか。</p> <p>○挿絵・写真・図表等の資料のレイアウトにはどのような工夫が見られるか。</p>	
表記・表現	<p>○表現教材や鑑賞教材の譜例の使い方など、楽譜の提示方法にはどのような工夫が見られるか。</p> <p>○音符、休符、記号、音楽に関わる用語の取り扱いにはどのような工夫が見られるか。</p>	
総 括	（全体的な特徴、その他）	

書名 項目	<h1>中学器楽 音楽のおくりもの</h1>	17 教出
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <p>○各楽器の構造や各部の名称が写真や図、イラストで示されるとともに、楽器の構え方については、複数の角度から写真が掲載され、奏法などの説明がされている。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <p>○「何が同じで、何が違う？」では、音の特徴と楽器の構造や奏法との関係について気付いたことを書き込めるようになっている。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <p>○「合わせて演奏しよう」では、自分の思いや意図を他者との協働で生かし、表現を工夫できるように配慮されている。各パートの役割を一人一人が担うことで自他の敬愛や協力を重んずる態度が養われるよう配慮されている。</p> <p>＜音楽活動の基礎的な能力を伸ばす工夫＞</p> <p>○学習のねらいをスタート、まとめの曲をゴールとして、基礎的な学習から段階的な構成になっており、創作と関連付けて学習できる教材も5つ用意されている。</p> <p>○リコーダーの楽曲は、ソプラノリコーダーとアルトリコーダーのどちらでも学習できるように楽譜が掲載され、平易な練習曲から始められるよう工夫されている。また、運指がページの両端に示されて、確認できるようになっている。</p> <p>＜生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫＞</p> <p>○巻頭ページの口絵には、箏と篠笛の家元から中学生へのメッセージを掲載し、音楽文化を継承、発展、創造していこうとする態度の育成のための工夫がされている。</p>	
資 料	<p>○「何が同じで、何が違う？」のコーナー等で、課題や学習方法が掲載されている。</p> <p>○巻末にギター・キーボードのコード表が手元の写真や鍵盤のイラスト付きで掲載されており、初めてでも取り組みやすいように工夫されている。</p> <p>○「まなびリンク」として、範奏動画の視聴、別途資料がダウンロードできるよう二次元コードを掲載している。</p>	
表記・表現	<p>○本文などには、UDフォントが使用されている。</p> <p>○和楽器の教材は、五線譜と和楽器固有の奏法譜が示されている。</p> <p>○リコーダーのタンギングやアーティキュレーションの説明部分では、図形等で示し、音や演奏のイメージがもてるように工夫して示されている。</p> <p>○巻末の「いろいろな用語、記号」で音符・休符・記号等の解説がされており、掲載曲に書かれている記号を学習できる。</p>	
総 括	<p>○口唱歌を取り入れた学習により、深い学びにつなげる工夫がされている。</p> <p>○各楽器の基礎の習得から多彩な組合せによるアンサンブル、技能に応じた応用まで系統的にバランスよく取り上げている。歌唱・創作・鑑賞の各学習活動との関連にも配慮され、学校の実態を踏まえて取り扱うことができるように工夫されている。</p>	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">中学生の器楽</h1>	27 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">教 芸</div>
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○各楽器の構造や各部の名称が写真や図、イラストで示されるとともに、楽器の構え方については、複数の角度から写真が掲載され、奏法などの説明がされている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○「深めよう！音楽」では、イラストの吹き出しがその曲の特徴について説明し、思考・判断につながる助言が示されている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○「アンサンブルセミナー」では、自分の思いや意図を他者との協働で生かし、表現を工夫できるように配慮されている。各パートの役割を一人一人が担うことで自他の敬愛や協力を重んずる態度が養われるよう配慮されている。 </p> <p> <音楽活動の基礎的な能力を伸ばす工夫> ○教材には学習課題(ねらい)や、学習内容に即した音楽を形づくっている要素が示されており、また創作活動と関連付けて学習できる内容も用意されている。 </p> <p> ○リコーダーの楽曲は、ソプラノリコーダーとアルトリコーダーのどちらでも学習できるように楽譜が掲載され、平易な曲から練習できるよう工夫されている。また、運指がページの両端に示されて、確認できるようになっている。 </p> <p> <生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を育成するための工夫> ○各界の著名人からのメッセージや、同世代の音楽活動の様子を掲載し、生徒が意識的に生活や社会の中の音や音楽との関わりに目を向け、考える工夫をしている。 </p>	
資 料	<p>○巻末の図鑑では、様々な楽器を一覧で掲載し、打楽器のページには、たくさんの楽器についての奏法が、写真を入れて詳しく説明されている。</p> <p>○巻末にギター・キーボードのコード表が手元の写真や鍵盤のイラスト付きで掲載されており、初めてでも取り組みやすいように工夫されている。</p> <p>○学習資料として活用できる二次元コードが掲載されている。</p>	
表記・表現	<p>○本文などでは、UDフォントが使用されている。</p> <p>○和楽器の教材は、五線譜と和楽器固有の奏法譜が示されている。</p> <p>○リコーダーのタンギングやアーティキュレーションの説明部分では、図形等で示し、音や演奏のイメージがもてるように工夫して示されている。</p> <p>○巻末の「音楽の約束」で音符・休符・記号等の解説がされており、掲載曲に書かれている記号を学習できる。</p>	
総 括	<p>○ソプラノリコーダーの楽曲数が拡充され、深い学びにつなげる工夫がされている。</p> <p>○各楽器の基礎の習得から多彩な組み合わせによるアンサンブル、技能に応じた応用まで系統的にバランスよく取り上げている。歌唱・創作・鑑賞の各学習活動との関連にも配慮され、学校の実態を踏まえて取り扱うことができるように工夫されている。</p>	

音楽科（器楽） 調査資料2

○分量について

内容	教出	教芸
1 総ページ数 ※ 目録に記載されたページ数	106	106

○学習活動別教材数について

内容	教出	教芸
1 扱っている弦楽器の数（和楽器を除く）	19	13
2 扱っている管楽器の数（和楽器を除く）	13	23
3 扱っている打楽器の数（和楽器を除く）	7	18
4 扱っている和楽器の数	13	24
5 独奏教材の数（練習曲を含む）	58	83
6 二重奏以上の合奏教材の数	36	30

○その他

内容	教出	教芸
1 我が国や郷土の伝統音楽の扱い	<ul style="list-style-type: none"> ○箏、三味線、篠笛、太鼓、尺八の5つを扱っている。 ○和楽器を使った独奏曲や合奏曲が掲載されている。 ○吹く楽器と弾く楽器の共通点や相違点について考えるコーナーがある。 ○「音のスケッチ」として、和楽器や唱歌を用いた創作が掲載されている。 ○「まなびリンク」として、動画で演奏方法や発展内容が掲載されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○箏、三味線、篠笛、太鼓、尺八の5つを扱っている。 ○和楽器を使った独奏曲や合奏曲が掲載されている。 ○「日本音楽の楽器編成」で、それぞれの日本の伝統音楽の種類で演奏される主要な楽器を一覧で紹介しているコーナーがある。 ○「My Melody」として、箏を用いた創作が掲載されている。 ○二次元コードで、演奏家の紹介が掲載されている。

美術科調査資料 作成の観点

書名	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> ○○○○ ○○○○○ </div>	発行者番号 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">発行者名</div>
項目		
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <p>○対象や事象を捉える造形的な視点を理解できるように、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○創造的に表すことができるように、どのような工夫が見られるか。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <p>○主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるように、どのような工夫がされているか。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <p>○美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を創造していく態度を養うために、どのような工夫が見られるか。</p> <p><一人一人のよさや可能性を伸ばすようにするための工夫></p> <p>○形や色彩、材料や光などの造形の要素に着目してそれらの働きを捉えたり、全体に着目して造形的な特徴などからイメージを捉えたりできるような工夫が見られるか。</p> <p>○鑑賞において、自分の価値観をもって批評し合うなど、言語活動が充実されるような工夫が見られるか。</p> <p>○単なる知識や理論の学習に偏らないような工夫が見られるか。</p>	
資 料	<p>○学習意欲を高めたり、発想を広げたりできるよう、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○制作過程や仕組み、材料や用具の安全な使い方などを理解できるよう、どのような工夫が見られるか。</p>	
表記・表現	<p>○題材の示し方や説明文には、生徒の興味・関心・意欲を高めたり、学習内容の理解を深めたりするために、どのような工夫が見られるか。</p>	
総 括	<p>(全体的な特徴、その他)</p>	

書名 項目	<h1>美術</h1>	9 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">開隆堂</div>
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各題材の導入や作品解説、作者のコメントから、造形的な視点を理解できるよう、文章の工夫をしている。また、用語解説を別枠で提示するなどの工夫がある。 ○参考写真と制作の手順が記されている題材や、巻末の「学びの資料」へとつなげ、技能を習得できるよう工夫している。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各題材において「発想や構想に関する目標」を示すとともに「学習のポイント」や発想・構想の方法、学習の進め方のヒントなどをマークで示す工夫がされている。また、掲載作品に「作者の言葉」や「アイデアスケッチ」を取り上げるなど、思考力、判断力、表現力等を育成する工夫をしている。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習の意欲が高まるように「学びの地図」や「発見と創造」「探求と継承」と題した資料を掲載する工夫が見られる。 ○生活や社会の中で生かす美術の働きを考えることができるように、学んだことを職業に生かしている人物の紹介や「暮らしに生きる美術」を掲載している。 <p>＜一人一人のよさや可能性を伸ばすようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○題材の冒頭で〔共通事項〕を意識できるよう説明文を示し、形や色彩などについて考えられるよう工夫している。 ○「学習のポイント」では、自分の見方や感じ方を大切にしながら、言語活動が充実されるよう、鑑賞の観点や手順を示す工夫がされている。 ○知識や理論の学習に偏らないよう、各領域の扉のページで学習を通して学ぶ内容や学習の魅力などを伝える工夫をしている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○原寸や作品の細部を拡大した図版を掲載し、学習意欲を高める工夫をしている。 ○巻末に、素材や用具の種類、技法などを掲載し、活動の流れを説明している。また、注意が必要な場面がある場合、赤枠で囲む工夫がされている。 ○各題材にQRコードを掲載し、鑑賞に役立つ資料、用具の使い方、制作手順やポイントを動画で視聴でき、表現方法や鑑賞活動を支援できるように工夫されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○本文などでは、UDフォントが使用されている。 ○題材名と合わせて「学習の目標」は三つの観点でマークを使い、安全に関する注意や他教科との関連などを11項目のマークで分類している。「学習のポイント」では生徒が主体的に話し合うことや深い学びにつながるよう配慮されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○「映像メディアを活用する」では、ICT機器を活用した作品や表現方法が示されている。また、情報モラルを配慮した文章が記載されている。 	

書名 項目	美術	38 光村
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <p>○各題材の導入に鑑賞を位置付け、鑑賞目標の設定をしている。また、「表現」の説明や作者の言葉などから、造形的な視点を捉えられるよう工夫をしている。</p> <p>○各題材中の「表現」の項目で、参考写真と制作の活動が記されている題材や、巻末の「学習を支える資料」につなげ、技能を習得できるよう工夫している。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <p>○発想や構想の手立てとして生徒の写真やアイデアスケッチなどを掲載している。また、「みんなの工夫」と題して2名の生徒の制作過程を詳しく紹介し、作家の言葉やアイデアスケッチ、コラムなどを掲載することにより、思考力、判断力、表現力等を育成する工夫をしている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <p>○学習の意欲が高まるように「美術って何だろう？」や「うつくしい！」と題した資料を掲載する工夫が見られる。</p> <p>○美術の学びを振り返りながら、美術の力や働きを人生や社会で生かすことができるように、「美術の力」を掲載している。</p> <p><一人一人のよさや可能性を伸ばすようにするための工夫></p> <p>○題材の冒頭に〔共通事項〕を意識できるような問いかけを示し、形や色彩などについて考えられるよう工夫がされている。</p> <p>○自分の見方や感じ方を大切にしながら、言語活動が充実されるよう、他者と意見交換をする生徒の写真に、活動内容を文章で示す工夫がされている。</p> <p>○知識や理論の学習に偏らないよう、制作過程を紹介し感じたことや使用する者の気持ちを考えて制作することの大切さを伝える工夫をしている。</p>	
資 料	<p>○鑑賞図版では用紙の素材を変えるなど、生徒の学習意欲を高める工夫をしている。</p> <p>○巻末に、素材や用具の種類、技法などを掲載し、活動の流れを説明している。また、注意が必要な場面がある場合、色を変える工夫がされている。</p> <p>○題材に応じてQRコードを掲載し、掲載作品の360度動画や音声ガイド、関連する技法の動画を視聴でき、表現方法や鑑賞活動を支援できるように工夫されている。</p>	
表記・表現	<p>○本文などでは、UDフォントが使用されている。</p> <p>○題材名の下に二つの領域別の目標を簡潔に示している。安全に関する注意や資料、他教科とのつながりなどを3項目のマークで分類している。各題材の冒頭に鑑賞作品を掲載し、表現と鑑賞を関連付けて深い学びにつながるよう配慮されている。</p>	
総 括	<p>○「写真や映像を撮影する」「映像で広がる世界」では、ICT機器を活用した作品や活用手順が示されている。また、情報モラルを配慮した文章が記載されている。</p>	

書名 項目	<h1>美術</h1>	116 日 文
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各題材の解説文において、造形的に捉えられるような文章の工夫がされている。また、作品説明や「造形的な視点」の補足書きからも、捉えられるよう工夫されている。 ○題材で用いた技法を作者の言葉や参考写真で掲載しているものや、巻末の「学びを支える資料」へとつなげ、技能を習得できるよう工夫している。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「造形的な視点」では、図版を指した具体的な問いかけにより全体の印象や気付いて欲しいことを示し、生徒が主体的に考えるように工夫している。掲載作品の作者の言葉や発想や構想のヒントとなるような活動の様子、アイデアスケッチなどを掲載することにより、思考力、判断力、表現力等を育成する工夫をしている。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習の意欲が高まるように「中学校美術の世界へようこそ」や「この教科書で学ぶみなさんへ」と題した資料を掲載する工夫が見られる。 ○美術の学びが生活や社会の場面で生かされることがわかるように、様々な職業の人物の紹介や「社会に生きる美術の力」を掲載している。 <p>＜一人一人のよさや可能性を伸ばすようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「造形的な視点」で〔共通事項〕を意識できるような問いかけを示し、形や色彩などについて考えられるよう工夫されている。 ○自分の見方や感じ方を大切にしながら、言語活動が充実されるよう、生徒が造形活動中に交流する写真を、発想や構想、鑑賞の場面で示す工夫がされている。 ○知識や理論の学習に偏らないよう、美術を通して自分らしさを見付け、思いを形にする大切さや楽しさを「3年間の成長地図」で紹介する工夫をしている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○原寸や部分拡大、見開きの図版を掲載することで学習意欲を高める工夫をしている。 ○巻末に、素材や用具の種類、技法などを掲載し、活動の流れを説明している。また、注意が必要な場面がある場合、色を変える工夫がされている。 ○題材に応じてQRコードを掲載し、掲載作品の360度画像や技法の説明動画、作品解説動画を視聴でき、表現方法や鑑賞活動を支援できるように工夫されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○本文などでは、UDフォントが使用されている。 ○題材名の上に活動や目的を示すサブタイトルを示し、三つの観点別の学びの目標を示している。安全に関する注意などを7項目のマークで分類している。「造形的な視点」で共通事項に気付き、深い学びにつながるよう配慮されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○「写真で表現する」「動画をつくる」では、ICT機器の活用方法や活用手順が示されている。また、情報モラルを配慮した文章が記載されている。 	

美術科 調査資料 2

○分量について

内容	学年	開隆堂	光村	日文
1 総ページ数 ※ 目録に記載されたページ数	1年	66	80	74
	2・3年上	122	104	64
	2・3年下			60

○題材数等

内容		学年	開隆堂	光村	日文		
1 題材数		1年	17	17	19		
		2・3年上	39	22	18		
		2・3年下			17		
2 領域別	A 表現	感じ取ったことや考えたことを基に、絵や彫刻などに表現する活動	描く活動の題材数	1年	4	4	5
				2・3年上	6	7	4
				2・3年下			5
		つくる活動の題材数	1年	3	3	3	
			2・3年上	4	6	3	
			2・3年下			3	
	B 鑑賞	伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動	描く活動の題材数	1年	3	3	4
				2・3年上	9	4	3
				2・3年下			3
		つくる活動の題材数	1年	3	3	3	
			2・3年上	8	4	4	
			2・3年下			4	
美術作品などのよさや美しさを感じ取り味わう活動の題材数	1年	5	5	5			
	2・3年上	18	6	6			
	2・3年下			5			

○作者等別作品数について

内容	学年	開隆堂	光村	日文
1 生徒の作品数 (作者名等の表示があるもの)	1年	64	55	93
	2・3年上	84	61	56
	2・3年下			58
2 日本人の作品数 (作者名等の表示があるもの)	1年	55	42	41
	2・3年上	132	72	66
	2・3年下			18
3 外国人の作品数 (作者名等の表示があるもの)	1年	16	19	13
	2・3年上	96	75	44
	2・3年下			39
4 伝統的な表現の数 (文化財、民芸品等)	1年	39	20	16
	2・3年上	121	95	39
	2・3年下			45
5 埼玉県に関連した作品数 (作品等の紹介に「埼玉県」や地名が表記されている作品等)	1年	1	1	1
	2・3年上	1	2	2
	2・3年下			2

○その他

内容	学年	開隆堂	光村	日文
1 スケッチの数	1年	10	23	10
	2・3年上	2	18	7
	2・3年下			12
2 写真・ビデオ・コンピュータ等の 映像メディアの作品の数 (作者名等の表示があるもの)	1年	3	22	2
	2・3年上	19	11	8
	2・3年下			7
3 日本及び諸外国の独特な表現形式 を扱った題材数	1年	3	2	3
	2・3年上	11	6	7
	2・3年下			4
4 漫画、イラストレーション、図を 扱った題材数	1年	5	7	4
	2・3年上	12	10	3
	2・3年下			3
5 地域の素材を扱った題材数	1年	1	1	1
	2・3年上	4	3	1
	2・3年下			1
6 美術館等を活用した題材数	1年	0	1	1
	2・3年上	2	1	1
	2・3年下			0
7 共働で行う創造活動の作品数	1年	6	0	2
	2・3年上	7	1	0
	2・3年下			8

保健体育科調査資料 作成の観点

書名	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> ○○○○ ○○○○○ </div>	発行者番号 発行者名
項目		
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <p>○個人生活における健康・安全について理解し、基本的な技能を身に付けるために、どのような工夫が見られるか。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <p>○健康についての自他の課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養うために、どのような工夫が見られるか。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <p>○心身の健康の保持増進を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養うために、どのような工夫が見られるか。</p> <p><生涯にわたり心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成するための工夫></p> <p>○健康・安全について科学的に理解するために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○体育分野と保健分野の相互の関連が図られるように、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○運動やスポーツの意義や多様性について理解するために、どのような工夫が見られるか。</p>	
資 料	<p>○学習内容を理解しやすくするために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○生徒の学習意欲を喚起するために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○主体的・対話的で深い学びの実現を図るために、どのような工夫が見られるか。</p>	
表記・表現	<p>○生徒が学習しやすいよう、レイアウトや表現等にはどのような工夫が見られるか。</p> <p>○脚注、注釈等には、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○記号、用語等には、どのような工夫が見られるか。</p>	
総 括	(全体的な特徴、その他)	

<p>書名</p> <p>項目</p>	<h1>新しい保健体育</h1>	<p>2</p> <p>東 書</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○見開き 2 ページ 1 単位を学習することを基本とし、「見つける」「学習課題」「課題の解決」「広げる」の 4 ステップが学習の流れとして配置され、章末の「学習のまとめ」「確認の問題」では、知識の習得状況が確認できるよう工夫されている。 ○実習のページでは、課題に対応したイラストや資料、デジタルコンテンツが設けられており、写真や動画を活用し、技能が習得できるよう工夫されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「見つける」「学習課題」「課題の解決」「広げる」では、それぞれのステップに応じて発問が設定されており、課題の合理的な解決を通して、思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されている。 ○「活用する」では、習得した知識・技能を活用して、他者に説明したり、話し合ったりする活動を通じて、思考を深める活動ができるよう工夫されている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻頭に「この教科書の使い方」等が掲載され、「見つける」「学習課題」「課題の解決」「広げる」の 4 ステップ構成を理解し、主体的に取り組めるよう工夫されている。 ○各単元の「広げる」や章末の「日常生活に生かそう」には、学習内容を実生活に当てはめて考える活動が設けられ、意欲を喚起するように工夫されている。 <p><生涯にわたり心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○保健分野各単元の「見つける」「学習課題」「課題の解決」「広げる」の活動を通して、身に付いた資質・能力を活用することができるよう工夫されている。 ○インターネットを使った学習のページを用いて、他教科等との関連が深められるように工夫されている。 ○様々な形でスポーツに関わる姿が示され、生涯にわたってスポーツに親しむ楽しさや、交流する意義などが考えられるよう工夫されている。 	
<p>資 料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○各章末に「章末資料」「確認の問題」「活用の問題」「日常生活に生かそう」が設けられ、学習内容の理解が深められるような工夫が見られる。 ○充実した口絵に加え、「教科書の使い方」「保健体育の学習方法」が示され、よりよく学習できるような工夫が見られる。 ○「Dマークコンテンツ」を示し、インターネット学習ができるような工夫が見られる。 	
<p>表記・ 表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○本文などには、UDフォントが使用されている。 ○単語や文章、文末に補足説明や関連資料へのリンクを示す工夫が見られる。 ○8 個のマークを示し、学習を深めたり、他教科や他ページとのつながりを示すような工夫が見られる。 	
<p>総 括</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○各章の扉に、小・中・高等学校の学習内容の系統性が明記されている。 ○「見つける」「学習課題」「課題の解決」「広げる」という学びの筋道が見える構成になっており、各単元に登場するキャラクターが学習のヒントを提示している。 ○各章末には、発展的な資料があり、知識の習得状況を確認する「章末資料」「確認の問題」「活用の問題」「日常生活に生かそう」が設けられている。 	

<p>書名 項目</p>	<h1>中学校保健体育</h1>	<p>4 大日本</p>
<p>内 容</p>	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1時間の学習の流れを「学習のねらい」「つかもう」「課題を解決しよう」「深めよう」「まとめよう」「活かそう」と構成し、資料を活用しながら学習できるよう工夫されている。 ○資料やイラスト、実技の写真を活用し、デジタルコンテンツも使い技能の習得に役立てるよう工夫されている。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「つかもう」「やってみよう」「話し合ってみよう」「調べてみよう」「活用して深めよう」では、課題の発見・解決・学習したことを活かすなどのさまざまな活動により、思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されている。 ○「学びを活かそう」では、学習したことを理解し、生活に生かすための課題を設定し、対話を通して思考を深める活動を通して、深い学びが実現できるよう工夫されている。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○口絵では、生徒が学習する重要性を理解し、自分のこととして捉え、主体的に取り組むことができるよう工夫されている。 ○「つかもう」では、身近な題材や生活について取り上げることで、主体的に学習に取り組む態度を育むことができるよう工夫されている。 <p>＜生涯にわたり心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「学びを活かそう」では、各章ごとに、自分で考え実践していく内容が設けられており、生涯にわたって実践する資質や能力を養う工夫がされている。 ○他教科等とのつながりを「保健編」「体育編」「他教科」に分けて示し、関連が深められるように工夫されている。 ○運動やスポーツの必要性や楽しさ、様々な関わり方が示されており、運動やスポーツに親しむ資質や能力を育成する工夫がされている。 	
<p>資 料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○豊富な写真や、現代的なテーマの口絵に加え、「教科書の使い方」や「1時間の学習の主な流れ」のページが示され、見通しをもって学習ができるような工夫が見られる。 ○章末の「学びを活かそう」で記入欄を広く設け、表現力を高められるような工夫が見られる。 ○ウェブサイト内で動画等を使ったインターネット学習ができるよう工夫されている。 	
<p>表記・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○本文などには、UDフォントが使用されている。 ○単語や文章や文末に補足説明や関連資料へのリンクを示す工夫が見られる。 ○10個のマークを示し、学習を深めたり、他教科や他ページとのつながりを示すような工夫が見られる。 	
<p>総 括</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○各章の扉に「この章で学習すること」として、課題と学習の流れが示され、小・中・高等学校の学習内容の系統性が明記されている。 ○本文と資料が明確に分かれた構成となっており、参照性を高める作りとなっている。 ○「学習のまとめ」では豊富な関連資料等を基に幅広い知識を習得し、発展させるような内容が示してある。 	

<p>書名</p> <p>項目</p>	<p style="text-align: center;">最新 中学校保健体育</p>	<p style="text-align: center;">50 大修館</p>
<p>内 容</p>	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各学習項目で見開き1ページを1単位時間とし、学びを3ステップ構成「つかむ（章とびら）」「身につける・考える（学習項目：本文・資料）」「まとめる・振り返る・深める（章のまとめ）」とし、確実に知識を習得できるよう工夫されている。 ○イラストや図表が豊富に掲載され、視覚的にも知識と技能の習得に役立つよう工夫されている。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「つかむ」「身につける・考える」「まとめる・振り返る」では、3ステップで構成することで、多様な導入活動を提示し、課題解決的な学習活動を通じて、思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されている。 ○「学習のまとめ」では、多様な表現活動を提示し、次の学びにつなげたり、実生活で活用したりすることができるよう工夫されている。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○口絵に「教科書の使い方」が掲載され、「つかむ」「身につける・考える」「まとめる・振り返る」という構成で、主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。 ○單元ごとに「きょうの学習」が記載され、この授業で何を学ぶかが明確化されることにより、学習への意欲が高まるよう工夫されている。 <p>＜生涯にわたり心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生活に関連した情報を提供する「コラム」「事例」や、実生活に生かして考える課題「体育の窓」「保健の窓」を通して、実践力を養う工夫がされている。 ○関連するコラムや資料の近くに各種マークを記載し、他教科等との関連が深められるように工夫されている。 ○運動やスポーツには多様な関わり方や楽しみ方があることが記載され、興味・関心、能力に応じて運動やスポーツが楽しめるよう工夫されている。 	
<p>資 料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○各章末に「章のまとめ」を設け、基礎・基本の習得や確認の問題が示されている。「学習の振り返り」を設け、知識・技能の定着度などの評価ができるよう工夫されている。 ○「特集資料」や「クローズアップ」を設け、深く学習できるような工夫が見られる。 ○画像や動画等のオリジナルデジタルコンテンツがあり、インターネット学習ができるような工夫が見られる。 	
<p>表記・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○本文などには、UDフォントが使用されている。 ○単語や文章や文末に補足説明や関連資料へのリンクを示す工夫が見られる。 ○6個のマークを示し、学習を深めたり、他教科や他ページとのつながりを示すような工夫が見られる。 	
<p>総 括</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○「章のとびら」に小・中・高等学校の学習内容の系統性が明記されている。 ○学ぶことや学び方の解説を示し、使用文字や色彩、紙面レイアウト、イラストについては、見やすく構成されている。 ○章末「章のまとめ」により、基礎・基本の習得を確認し、定着度が評価できるような構成となっている。 	

<p>書名 項目</p>	<h1>中学保健体育</h1>	<p>224 学 研</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○すべての項目に「目標」「つかむ」「考える・調べる」「まとめる・深める」で構成され、「キーワード」を掲載し、その時間で習得した知識を活用する学習活動ができるように工夫されている。 ○身に付けるべき技能については「マーク」をし、イラストや写真を掲載し、インターネットやデジタル教材でも学習を深めることができる工夫がされている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○「学習の目標」「課題をつかむ」「考える・調べる」「まとめる・深める」では、各項目に「見方・考え方」を設け、これらを働かせて思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されている。 ○「まとめる・深める」では、身に付けた知識を基に、自他の課題を見つけ、解決に向けた活動を通じて、実生活に生かせるよう工夫されている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○学習内容を活用する活動を通じて、「今・未来」を考える課題があり、自分の未来やキャリアを考える言葉が示され、実践できるように工夫されている。 ○学習の進め方が掲載され、学習方法についてはイラスト付きの説明があるため、主体的に学習に取り組めるよう工夫されている。</p> <p><生涯にわたり心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成するための工夫> ○「保健体育と情報」や「情報サプリ」のコーナーを通して、健康安全について科学的に理解し、健康の保持増進に生かす工夫がされている。 ○「キーワードで見る保健体育の学習内容」では、学習項目をキーワードでまとめ、他教科等との関連が深められるように工夫されている。 ○スポーツとの多様な向き合い方が示され、運動の得意不得意に関係なく、生涯にわたってスポーツに親しむための資質や能力を養う工夫がされている。</p>	
<p>資 料</p>	<p>○各章末に「章のまとめ」と「学年のまとめ」を設け、自己の評価や振り返りの欄が設けてある。基礎・基本の習得や確認のための問題が示されている。 ○巻頭で「ディスカッション」「ブレインストーミング」「実習・実験」「調査方法」等様々な学習の進め方がイラスト付きで解説されている。 ○デジタルコンテンツがあり、インターネット学習ができるような工夫が見られる。</p>	
<p>表記・表現</p>	<p>○本文などには、UDフォントが使用されている。 ○単語や文章や文末に補足説明や関連資料へのリンクを示す工夫が見られる。 ○10個のマークを示し、学習を深めたり、他教科や他ページとのつながりを示すような工夫が見られる。</p>	
<p>総 括</p>	<p>○各章の始めに、章で学習することの課題と学習の流れが示され、小・中・高等学校の学びの系統性が示されている。 ○四つのステップ学習の流れに沿って、学習内容の要素を見やすく構成されている。 ○巻末には、豊富な関連資料等が掲載され、幅広い知識を習得し、発展させられるような内容構成となっている。</p>	

保健体育科 調査資料 2

○分量について

内容	東書	大日本	大修館	学研
1 総ページ数 ※ 目録に記載されたページ数	206	194	198	206
2 体育理論、保健分野のページ数 (体育理論/保健分野)	37/136	40/122	40/132	38/132
3 絵・巻末の総ページ数	27	27	23	26

○単元別ページ数

東書	<p>○体育編 37 ページ</p> <p>「運動やスポーツの多様性」 11 ページ</p> <p>「運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方」 15 ページ</p> <p>「文化としてのスポーツの意義」 11 ページ</p> <p>○保健編 136 ページ</p> <p>「健康な生活と疾病の予防」 56 ページ (①14 ページ②20 ページ③22 ページ)</p> <p>「心身の機能の発達と心の健康」 30 ページ</p> <p>「傷害の防止」 30 ページ</p> <p>「健康と環境」 20 ページ</p>
大日本	<p>○体育編 40 ページ</p> <p>「運動やスポーツの多様性」 12 ページ</p> <p>「運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方」 16 ページ</p> <p>「文化としてのスポーツの意義」 12 ページ</p> <p>○保健編 122 ページ</p> <p>「健康な生活と病気の予防」 50 ページ (①14 ページ②18 ページ③18 ページ)</p> <p>「心身の発達と心の健康」 25 ページ</p> <p>「傷害の防止」 29 ページ</p> <p>「健康と環境」 18 ページ</p>
大修館	<p>○体育編 40 ページ</p> <p>「運動やスポーツの多様性」 12 ページ</p> <p>「運動やスポーツの効果・学び方・安全」 16 ページ</p> <p>「文化としてのスポーツ」 12 ページ</p> <p>○保健編 132 ページ</p> <p>「調和のとれた生活」 12 ページ</p> <p>「生活習慣の健康への影響」 22 ページ</p> <p>「感染症の予防と健康を守る社会の取り組み」 22 ページ</p> <p>「心身の発達と心の健康」 30 ページ</p> <p>「けがの防止と応急手当」 24 ページ</p> <p>「環境の健康への影響」 22 ページ</p>
学研	<p>○体育編 38 ページ</p> <p>「スポーツの多様性」 12 ページ</p> <p>「スポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方」 12 ページ</p> <p>「文化としてのスポーツ」 14 ページ</p> <p>○保健編 132 ページ</p> <p>「健康な生活と病気の予防」 56 ページ (①16 ページ②22 ページ③18 ページ)</p> <p>「心身の発達と心の健康」 28 ページ</p> <p>「傷害の防止」 28 ページ</p> <p>「健康と環境」 20 ページ</p>

○領域別教材数等について

内容		東書	大日本	大修館	学研
領域別教材数	運動やスポーツの多様性	3	3	3	3
	運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方	3	3	3	3
	文化としてのスポーツの意義	3	3	3	3
	健康な生活と疾病の予防	21	17	20	14
	心身の機能の発達と心の健康	10	9	12	8
	傷害の防止	8	8	8	6
	健康と環境	5	6	8	7

○その他

内容		東書	大日本	大修館	学研
1	体育分野と保健分野の関連をもたせた教材数 ※「欲求やストレスへの対処」と「体ほぐしの運動」等	45	49	47	34
2	主体的・対話的で深い学びを促すための教材数 ※「考えてみよう」「話し合ってみよう」「調べてみよう」等	248	156	117	170
3	発展的内容の教材数	17	15	18	18

技術・家庭科（技術分野）調査資料 作成の観点

書名	<div style="font-size: 2em; letter-spacing: 0.5em;">○○○○ ○○○○○</div>	発行者番号 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">発行者名</div>
項目		
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <p>○生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付け、技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めるために、どのような工夫がされているか。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <p>○生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、製作図等に表現し、試作等を通じて具体化し、実践を評価・改善するなど、課題を解決する力を養うために、どのような工夫がされているか。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <p>○よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うために、どのような工夫がされているか。</p> <p>＜技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めるための工夫＞</p> <p>○技術と生活や社会、環境との関わりについて、より一層の理解を深めるために、どのような工夫がされているか。</p> <p>＜よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うための工夫＞</p> <p>○安心、安全で便利な生活の実現や持続可能な社会の構築のために、主体的に技術に関わり、技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うために、どのような工夫がされているか。</p>	
資 料	<p>○学習に関心をもたせ、学習効果を高めさせるために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○資料と本文の関係及び資料の配置には、どのような工夫が見られるか。</p>	
表記・表現	<p>○タイトル・見出し・説明文などの使い方には、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○用語・記号・図記号・単位・数値等の使い方には、どのような工夫が見られるか。</p>	
総 括	（全体的な特徴、その他）	

書名 項目	新しい技術・家庭 技術分野 未来を創る Technology	2 東書
内容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○各内容とも技術の原理・法則と仕組み、技術による問題解決、社会発展と技術で構成され、導入における「技術の最適化」で技術の見方、考え方に気付けるようにしている。本文の内容を裏づける図などを掲載して科学的な思考に基づく知識と技術が習得できるよう工夫している。全編において、問題の発見と課題の設定を設け、主体的に問題を見だし、柔軟に問題解決に取り組めるようにしている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○各内容とも最初に基本的な知識の習得を行い、その知識を活用しながら「技術の工夫を読み取ろう」、「問題を発見し、課題を設定しよう」という学習内容で構成されている。また、学習の流れを「問題解決カード」として該当頁の上部に表記している。そして、第2章の最後に「問題解決の評価、改善・修正」を取り上げ、自分たちの学習過程を振り返らせている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○適切に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うために、「最適化の窓」「技術の工夫」という欄を設けている。 </p> <p> <技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めるための工夫> ○各内容の終末には、技術と生活や社会、環境との関わりを資料や図、グラフ等を使用し、持続可能な社会の実現へと結びつけられるよう工夫している。 ○巻末には、技術分野の学習を通して、学んだことを生かし、将来や次代のための技術、地球環境についての未来について取り組めるよう工夫している。 ○Society 5.0を支える技術の紹介やSDGsが目指す持続可能な未来へ向けて技術をどのように活用していくか、考えられるよう工夫している。 </p> <p> <よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うための工夫> ○各内容の最終章では、技術の見方・考え方を働かせて技術のプラス面・マイナス面について考えたり、これからの技術の改良・応用について考えたりできるよう配慮されている。 </p>	
資料	<p> ○生徒の発達の段階、学校や地域の実態などによって選択できるように、豊富な問題解決例と資料を取り上げている。 </p> <p> ○多様なマークを使い、学習のポイントや関連するページやカリキュラムマネジメントが分かるようにし、ページ下には「技術の工夫」として、豆知識を掲載している。 </p> <p> ○巻末には四つの技術を結びつける総合的な問題解決ページを掲載している。また、コンピュータの基本操作と共に「今すぐできるプログラミング手帳」が別冊で付属している。 </p> <p> ○QRコードが各内容の最初にあり、ポイントとなる資料や動画などを見ることができる。 </p>	
表記・表現	<p> ○タイトルや見出しの背景部分に分野ごとに異なる配色を施している。また、他教科と関連のある内容は、各頁の該当箇所付近に色別で示している。書体は、UDフォントで統一されている。読みにくい漢字や用語にはルビがふられている。 </p>	
総括	<p> ○各内容は、「理解する」、「問題解決に取り組む」、「つなげる、広げる」のまとまりで構成されている。 </p> <p> ○簡単なプログラミングを体験できるよう「プログラミング手帳」を別冊付録にしている。 </p>	

書名 項目	New 技術・家庭 技術分野 明日を創造する	6 教 図
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○各内容とも「つくって・育てて学ぼう」「じっくり学ぼう」「学びを深め生かそう」で編集され、3ステップによる学習の流れで構成されている。「みつける」では対話式で興味を引き出すとともに、技術的な見方・考え方を身につけさせ、「学ぶ」で理解し、「振り返る」で考えを深め、次の学習への準備へ接続できるよう工夫している。また別冊が付属し、基礎的な知識や技能をまとめた「技術ハンドブック」を利用することができる。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○各内容とも第1章で基本的な知識と技術の工夫について学び、第2章で設計や計画について具体的な製作例（各題材例につき4～6頁）をもとに学習する構成になっている。そして、第1章と第2章の最後に「学んだことをまとめよう」を取り上げ、箇条書きで項目ごとに自分たちの学習過程を振り返らせている。巻末には4内容の設計計画表の例が掲載されている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○適切に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うために、「やってみよう」「まとめ問題」という欄を設けている。 </p> <p> <技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めるための工夫> ○各内容の終末では、各内容の技術のプラス面、マイナス面を提示し、持続可能な社会の実現につながるよう、生徒自身の問題として捉えられるよう資料を工夫している。 ○日本の伝統的な技術やコンテストなども取り上げ社会とのつながりを意識づけている。また、身近な取り組み例や生活、社会の問題点について解決できるように工夫している。 ○Society 5.0やSDGsなどを取り上げ、未来の社会を創造するという意識が持てるよう工夫している。 </p> <p> <よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うための工夫> ○各内容の最終章では技術の見方・考え方を働かせて技術のプラス面・マイナス面について考え、まとめでは技術の役割や活用、発展について考えられるよう配慮されている。 </p>	
資 料	<p> ○段階に応じた実習題材を配し、基礎内容をまとめた別冊ハンドブックや計画表を利用することで実践に役立つ知識や技能の習得ができるようにしている。 </p> <p> ○目立つロゴやマークを配置し、学習のポイントを分かりやすく示している。また、各内容それぞれにおいて、設計・計画できるワークシートが付属している。 </p> <p> ○各内容で学んだ技術を組み合わせ問題解決に取り組める「夢をかなえる技術」編を提示し、身近な問題点を考え、改善のきっかけとなる資料を特集している。 </p> <p> ○QRコードが各ポイントにあり、関連した資料やプログラムなどを見ることができる。 </p>	
表記 ・ 表現	<p> ○重要語句は色を変えて強調し、資料との関連はすべて本文の説明と関連付けて示している。また、他教科との関連は各章の最初に示している。書体は、UDフォントで統一されている。読みにくい漢字や用語にはルビがふられている。 </p>	
総 括	<p> ○各内容は、「つくって・育てて学ぼう」、「じっくり学ぼう」、「学びを深め生かそう」のまとまりで構成されている。 </p> <p> ○基礎技能を、実習時に手軽に持ち運べるよう別冊「技術ハンドブック」にまとめている。 </p>	

<p>書名 項目</p>	<p>技術・家庭 技術分野 テクノロジーに希望をのせて</p>	<p>9 開隆堂</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○各内容とも見方・考え方に「気づく」、見方・考え方を「はたらかせる」、振り返り「定着させる」で構成されている。導入部分で具体的な製品を示し、技術の見方・考え方を解説して、課題を提示している。科学的な原理や仕組みをおさえた解説や深めた実験を配置して理解が深まるよう工夫している。各内容の出口にはこれからの技術や学習のまとめがあり、技術への関心や課題意識をもてるよう工夫している。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○各内容とも最初に基本的な知識の学習を行い、その後「問題解決の手順(内容A)」、「技術による問題解決(内容BCD)」について学習する構成になっている。また、どの内容も学習の流れを「問題解決の流れ」として見開きで表記している。そして、第3章のはじめに「学習を振り返ろう」を取り上げ、技術と生活や社会、環境との関わりと関連させながら学習する構成になっている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○適切に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うために、「私たちの未来」「学習をふり返ろう」という欄を設けている。</p> <p><技術と生活や社会、環境との関わりについて理解を深めるための工夫> ○各内容ともに各界で活躍する人や企業を取り上げたり特色ある活動の地域を紹介したりし、身近な技術について興味を持てるよう工夫している。 ○社会で行われている企業のものづくりの順序と学習の順序とを関連づけ、PDCAサイクルとともに示し、まとめでは、キーワードで振り返られるよう工夫している。 ○実習例においてもPDCAサイクルを意識した実習の構成になっていて、学習した内容が社会へと繋がるよう工夫している。</p> <p><よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うための工夫> ○各内容の最終章では、これまでの学習をふり返り、技術の見方・考え方について考えたり、技術の役割やこれからについて考えたりできるよう配慮されている。</p>	
<p>資 料</p>	<p>○地域や学校事情等に適合するよう、各内容で複数の実習例を提示し、トレードオフと最適化に気付かせるようにしている。 ○学習のポイントや関連するページ、カリキュラムマネジメントが一目で分かるマーク類を多数用いている。また、ページ上下には豆知識や関連工具などの写真を掲載している。 ○各内容の始めには技術の歴史のページがあり、巻末資料には技術分野の学習を振り返る特集やコンピュータの基本操作が掲載されている。 ○QRコードが各ポイントにあり、関連した動画やコンテンツを見ることができる。</p>	
<p>表記 表現</p>	<p>○タイトルの背景部分や見出し部分に分野ごとに異なる配色を施している。また、他教科と関連のある内容は、各頁の該当箇所付近に色別で示している。書体は、UDフォントで統一されている。読みにくい漢字や用語にはルビがふられている。</p>	
<p>総 括</p>	<p>○各内容は、「技術・技能の基礎・基本」、「問題発見、計画立案、活動の評価・改善」、「技術の評価・活用」のまとまりで構成される。 ○言葉の判別がしやすくなるよう改行のしかたを工夫している箇所がある。</p>	

技術・家庭科（技術分野） 調査資料 2

○分量について

内容	東書	教図	開隆堂
1 総ページ数 ※ 目録に記載されたページ数	305	339	302

○項目別ページ数について

<A 材料と加工の技術>

内容	東書	教図	開隆堂
(1) 生活や社会を支える材料と加工の技術	18	24	22
(2) 材料と加工の技術による問題の解決	40	48	44
(3) 社会の発展と材料と加工の技術	8	4	4

<B 生物育成の技術>

内容	東書	教図	開隆堂
(1) 生活や社会を支える生物育成の技術	12	12	18
(2) 生物育成の技術による問題の解決	28	32	20
(3) 社会の発展と生物育成の技術	6	4	4

<C エネルギー変換の技術>

内容	東書	教図	開隆堂
(1) 生活や社会を支えるエネルギー変換の技術	30	32	36
(2) エネルギー変換の技術による問題の解決	20	30	10
(3) 社会の発展とエネルギー変換の技術	6	4	4

<D 情報の技術>

内容	東書	教図	開隆堂
(1) 生活や社会を支える情報の技術	20	32	42
(2) ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツのプログラミングによる問題の解決	16	36	10
(3) 計測・制御のプログラミングによる問題の解決	16	20	12
(4) 社会の発展と情報の技術	6	4	4

○キャリア教育とのかかわる箇所

東書	20	建築家 養殖業 ネジ製造業 人工知能研究 学んだことを社会に生かす
教図	14	寄木細工職人 農業・野菜ソムリエ 航空機整備サポート ソフトエンジニア 先輩からのメッセージ
開隆堂	11	椅子製作 6次産業化 アシストギヤ開発 ゲームアプリ開発 私たちの未来へつなげよう

○企業などとの連携にかかわる箇所

東書	24	強化プラスチック(CFRP) 新幹線 自動車 飼育方法 自動運転
教図	17	自動車 養殖技術 資源 生体認証
開隆堂	21	規格材 金属精錬技術 品種改良 自動車

○安全指導にかかわる箇所

東書	22	作業 工具 機械 塗装 農薬 飼育 水産生物 電気機器 情報の学習
教図	40	実習 工具 機械 塗装 農薬 電気機器 保守・点検 情報セキュリティ
開隆堂	22	作業 工具 機械 塗装 農薬 電気機器 保守・点検 パスワード

○その他

内容	東書	教図	開隆堂
(1) 題材数	15	16	15
(2) 製作品の例示数	41	32	29
(3) 観察・実験、見学、調査・研究の例示数	70	73	99
(4) 技術にかかわる倫理観について取り上げている箇所数	34	25	31

技術・家庭科（家庭分野）調査資料 作成の観点

書名	<div style="font-size: 2em; letter-spacing: 1em;">○○○○ ○○○○○</div>	発行者番号 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">発行者名</div>
項目		
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <p>○家族・家庭の機能について理解を深め、家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて、生活の自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにするため、どのような工夫がされているか。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <p>○家族・家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなど、これからの生活を展望して課題を解決する力を養うために、どのような工夫がされているか。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <p>○自分と家族、家庭生活と地域との関わりを考え、家族や地域の人々と協働し、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養うために、どのような工夫がされているか。</p> <p>＜実践的・体験的な活動の工夫＞</p> <p>○調理、製作等の実習や観察、調査、実験などの実践的・体験的な活動を通して学習することにより、習得した知識及び技能を生徒自らの生活に生かすことができるようにするために、どのような工夫がされているか。</p>	
資 料	<p>○学習に関心をもたせ、学習効果を高めさせるために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○挿絵・写真・図表等、資料と本文の関係及び資料のレイアウトには、どのような工夫が見られるか。</p>	
表記・表現	<p>○家庭分野における学習方法の特質である衣食住などに関する実践的・体験的な活動を安全かつ効果的に進めるために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○タイトル・見出し・説明文などの使い方には、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○用語・記号・図記号・単位・数値等の使い方には、どのような工夫が見られるか。</p>	
総 括	（全体的な特徴、その他）	

書名 項目	<p style="text-align: center;">新しい技術・家庭 家庭分野</p> <p style="text-align: center;">自立と共生を目指して</p>	<p style="text-align: center;">2</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;">東 書</div>
内 容	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <p>○身に付けさせたい技能を「いつも確かめよう」にまとめて掲載したり、各節の最後に「まとめの活動」を設けたりする等、基礎的・基本的な知識・技能を習得させる工夫がされている。</p> <p>○編ごとに「学習のまとめ」「大切な用語（重要語句の一覧）」が掲載され、基礎的・基本的な知識・技能を習得できるよう工夫がされている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <p>○ガイダンスでは問題解決的な流れを具体例とともに示したり、各編の導入では、身方・考え方の例を示したりして問題解決に生かす工夫がされている。</p> <p>○実習例では、「私のオリジナル」として工夫例を取り上げ、生徒の創造性を引き出すことができるように工夫されている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <p>○学習を深めるために「活動」として調査活動や比較実験等の課題を設け、家庭生活を見つめ、よりよい生活を創造しようとする態度を養うための工夫がされている。</p> <p>○学習に関わりにある人からのメッセージを紹介する等つながりを感じられる工夫がされている。</p> <p><実践的・体験的な活動の工夫></p> <p>○学校の実態や個に応じて、選択できる実習例が掲載されている。</p> <p>○実習や生活の中で必要な基礎技能をまとめた「いつも確かめよう」等で、技術の定着を図る手助けとなるような付録や写真・イラスト等の工夫がある。</p>	
資 料	<p>○本文と資料は「資料マーク」で区分され、ページ下には学習内容の関連コラムを「せいかつメモ」として掲載し、資料のレイアウトに工夫がされている。</p> <p>○実物大写真や多様なデジタルコンテンツ（実習動画・高齢者介助方法等）、付録の充実（防災手帳・幼児の視界体験眼鏡）と学習効果を高める資料の工夫がされている。</p>	
表記・表現	<p>○本文などには、UDフォントが使用されている。</p> <p>○実習例が大きく見開きで掲載され、安全・衛生の注意事項にマークを表記している。</p> <p>○紙面右端に「各編・各章」「実習例」「いつも確かめよう」の爪となる色帯表記、巻末に「言葉のページ（用語の解説）」と検索性を高める工夫がされている。</p> <p>○学習内容を関連付ける他教科・小学校マーク等、各種表記の工夫がされている。</p>	
総 括	<p>○別支援教育の観点から、学習しやすい内容及びデザインについて文字の書体、図版やイラストのレイアウト等に配慮がされている。</p> <p>○ガイダンスの後、B（衣食住の生活）、C（消費生活・環境）、A（家族・家庭生活）の内容の順に配列され、巻末に「生活の課題と実践」を掲載している。</p>	

書名 項目	<h1 style="margin: 0;">New 技術・家庭 家庭分野</h1> <h2 style="margin: 0;">くらしを創造する</h2>	6 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">教 図</div>
内 容	<p> <知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○見方・考え方を養うことができる「やってみよう」のページは、「見つめる」「学ぶ」「ふり返る」の3ステップで構成され、問題解決的に知識・技能を習得させる工夫がされている。 ○学習のまとめりごとに「章末のまとめ」が掲載され、学習の振り返りができる構成になっており、基礎的・基本的な知識・技能を習得できるよう工夫がされている。 </p> <p> <思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○問題解決的な学習を手順に沿って繰り返し取り上げ、見方・考え方の視点を意識し、生活を工夫し創造する力を身に付けながら、課題を解決できるよう工夫されている。 ○実習題材は、基本の作り方や「私のアレンジ」をもとに、生徒一人一人が自らの問題に合わせて工夫し、創造することができるように配慮されている。 </p> <p> <学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○問題解決的な学習の進め方を具体的に見開きで紹介し、「やってみよう」で得た学びを活かして主体的に学習に取り組めるよう工夫がされている。 ○学習に関わりのある人からのメッセージを紹介し、社会とのつながりを感じられるような工夫がされている。 </p> <p> <実践的・体験的な活動の工夫> ○実習題材は、実習の流れが分かりやすく進めやすいような手順の工夫があり、実践的・体験的な活動を通して、知識・技能が身に付けられるように配慮されている。 ○ロールプレイング等の活動例が掲載されている。 </p>	
資 料	<p> ○本文と資料はマークで区分され、「資料マーク」と「参考マーク」を示して資料に選択性をもたせ、また、視覚的な資料を掲載し、レイアウトに工夫がされている。 ○実物大写真や多様なデジタルコンテンツ（実習動画・幼児の様子等）、献立作成の学習で使用できる食品シールの付録等、学習効果を高める資料の工夫がされている。 </p>	
表記・表現	<p> ○本文などには、UDフォントが使用されている。 ○実習例の注意事項に安全・衛生マークを付し、アレルギー物質を含む食材の代替え食品例を示している。また、実習の工夫例や失敗例も併せて掲載している。 ○紙面左上に「やってみよう」「学びを生かそう」「章末のまとめ」の爪表記がある。 ○学習内容を関連付けるリンク・共生マーク等、各種表記の工夫がされている。 </p>	
総 括	<p> ○特別支援教育の観点から、色遣いやフォント、余白のバランス、図の見易さ等、生徒の発達特性について工夫され、ユニバーサルデザインに配慮されている。 ○ガイダンスの後、A（家族・家庭生活）、B（衣食住の生活）、C（消費生活・環境）の内容の順に配列され、巻末に「生活の課題と実践」を掲載している。 </p>	

<p>書名 項目</p>	<p style="text-align: center;">技術・家庭 家庭分野 生活の土台 自立と共生</p>	<p style="text-align: center;">9 開隆堂</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「調理方法Q&A」や「製作の基礎・基本」を掲載する等、基礎的・基本的な知識・技能を習得させる工夫がある。 ○学習のまとめりごとに「ふり返り」「生活にいかそう」の欄があり、学習の自己評価ができるとともに、身に付いた知識・技能を生活に生かすことができるよう構成が工夫されている。 <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○教科書全体を通して、学習過程が統一されており、学び方や進め方が分かりやすく、問題解決に向けて取り組みやすくなる工夫がされている。 ○様々な対話や意見交換ができる学習活動が取り入れられており、会話を通して考えを明確にするなど、生徒自らの考えを広げて深められるような工夫がされている。 <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習のまとめりごとに見通しをもち、生活の中から課題を見つけられるような本文の記述や課題が配置され、主体的に課題に取り組める工夫がされている。 ○学習に関わりのある人のメッセージやインタビューを取り上げ、社会とのつながりを感じられるような工夫がされている。 <p><実践的・体験的な活動の工夫></p> <ul style="list-style-type: none"> ○家庭でも取り組みたくなる調理実習例や、普段から使いたくなる製作実習例等、主体的に取り組める工夫がされている。 ○「グループワークの様子」等の活動例が掲載されている。 	
<p>資 料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○本文と資料は「参考マーク」で区分され、奇数ページ右上に学習内容の関連写真や名称、各ページ下には豆知識を掲載し、資料のレイアウトに工夫がされている。 ○実物大写真や多様なデジタルコンテンツ（実習動画・幼児の様子等）が参照でき、基礎縫い動画は左利き生徒にも対応し、学習効果を高める資料の工夫がされている。 	
<p>表記・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○本文などには、UDフォントが使用されている。 ○実習例は手順を大きく横流れに統一し、安全・衛生の注意事項はマークを付し、アレルギー物質を含む食材にも黄色を付して注意を促す表記をしている。 ○一つの見開きの中に本時の目標から学習活動、終末が見通せるようになっている。 ○学習内容を関連付ける他教科・実験マーク等、各種表記の工夫がされている。 	
<p>総 括</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○特別支援教育の視点を取り入れ、読みやすい文章、カラーバリアフリー等、ユニバーサルデザインに基づいた設計で、使いやすくなるように配慮がされている。 ○ガイダンスの後、A（家族・家庭生活）、B（衣食住の生活）、C（消費生活・環境）の順の内容の配列になっていて、巻末に「生活の課題と実践」を掲載している。 	

技術・家庭科（家庭分野） 調査資料 2

○分量について

内容	東書	教図	開隆堂
1 総ページ数 ※ 目録に記載されたページ数	304	306	302

○項目別ページ数について

<A 家族・家庭生活>

内容	東書	教図	開隆堂
(1) 自分の成長と家族・家庭生活	6	12	12
(2) 幼児の生活と家族	36	34	30
(3) 家族・家庭や地域との関わり	11	10	12
(4) 家族・家庭生活についての課題と実践	2	2	2

<B 衣食住の生活>

内容	東書	教図	開隆堂
(1) 食事の役割と中学生の栄養の特徴	8	12	8
(2) 中学生に必要な栄養を満たす食事	18	20	26
(3) 日常食の調理と地域の食文化	58	58	52
(4) 衣服の選択と手入れ	24	26	24
(5) 生活を豊かにするための布を用いた製作	26	22	20
(6) 住居の機能と安全な住まい方	22	22	18
(7) 衣食住の生活についての課題と実践	3	6	4

<C 消費生活・環境>

内容	東書	教図	開隆堂
(1) 金銭の管理と購入	14	24	14
(2) 消費者の権利と責任	10	18	20
(3) 消費生活・環境についての課題と実践	1	2	2

○学習指導要領との関連について

内容	東書	教図	開隆堂
(1) ガイダンスに関する内容のページ数	14	16	12
(2) 日本の生活文化に関する内容の掲載箇所	29	25	21
(3) 生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図るための内容の掲載箇所	46	54	59
(4) 問題解決的な過程を重視した学習の充実を図る内容の掲載箇所	62	75	56
(5) 言語活動の充実を図る内容の掲載箇所	12	31	29

○配慮事項について

内容	東書	教図	開隆堂
(1) キャリア教育についての配慮がされている箇所	17	18	19
(2) コンピュータや情報通信ネットワークの活用を図った箇所	44	54	62
(3) 防犯意識を高める工夫がされている箇所	8	12	12
(4) 特別支援の観点への配慮がされている箇所	教科書全体	教科書全体	教科書全体

○その他

内容	東書	教図	開隆堂
(1) 題材数	19	12	12
(2) 製作品・調理実習の例示数	24・52	7・55	10・44
(3) 観察・実験、見学、調査・研究の例示数	77	87	92
(4) 安全・衛生に配慮する項目を取り上げている箇所数	46	58	55

外国語科（英語）調査資料 作成の観点

書名	<div style="font-size: 2em; letter-spacing: 1em;">○○○○ ○○○○○</div>	発行者番号 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">発行者名</div>
項目		
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <p>○外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解することができるように、どのような工夫がされているか。</p> <p>○聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能が身に付くように、どのような工夫がされているか。</p> <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <p>○コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりする力を養うために、どのような工夫が見られるか。</p> <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <p>○外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養うために、どのような工夫がされているか。</p> <p>＜聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫＞</p> <p>○単元などの時間のまとまりごとに、五つの領域別の目標と指導内容との関係が明確になるよう、どのような工夫をしているか。</p> <p>○文、文構造及び文法事項について、言語活動と効果的に関連付けて取り上げており、用語や用法の指導に偏ることのないよう、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○必要となる語彙を言語活動と効果的に関連付けて取り上げられており、実際のコミュニケーションにおいて活用されるよう、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○図書の内容と一体のものとして、視聴覚教材などが相互に適切に関連が図られるよう、どのような工夫が見られるか。</p>	
資 料	<p>○学習効果を高めるため、資料には、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○挿絵、写真等の資料にはどのような工夫が見られるか。</p>	
表記・表現	<p>○字体、記号・符号、用語等の使い方には、どのような工夫が見られるか。</p> <p>○文字の大きさ・行間等には、どのような工夫が見られるか。</p>	
総 括	（全体的な特徴、その他）	

<p>書名 項目</p>	<p>NEW HORIZON English Course</p>	<p>2 東 書</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○各単元で「Preview」の後の「Story」で本文を扱い、その概要や新出表現を理解させるようになっている。登場人物や話題が本文と関連した「Practice」にて代入練習を行い、新出表現を定着させるように工夫されている。 ○「Story」の「Practice」の下に、話す・書く活動が設けられている。「Mini Activity」にて、聞く・話す・書く技能を身に付けさせるようになっている。「Let's」シリーズでは、目的・場面・状況を明確にして各領域に特化した活動を扱っている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○単元の「Preview」で目的・場面・状況を捉え、「Read and Talk」では3段読みで概要・詳細を理解・整理し、表現につなげている。また、「Stage Activity」では、「Unit Activity」で高めた表現力を活用し、5領域を統合した活動を通して、思考力、判断力、表現力を伸ばす構成になっている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○「Mini Activity」、「Unit Activity」、「Stage Activity」という順で、知識や技能を総合的に扱い、相手に配慮したコミュニケーションに結び付ける活動を取り入れている。SDGsに関連した今日的課題や世界に目を向けさせる話題など題材に工夫がある。</p> <p><聞くこと、読むこと、話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫> ○各単元の最初のページには活動の目標が示され、単元末の「Unit Activity」の「CHECK」で振り返る形となっている。巻末の「CAN-DO リスト」には領域別の目標が示され、単元との関連が分かるように工夫されている。 ○各単元に「Key Sentence」と「Practice」を設け、目的や場面に合う文法が使えるようにしている。単元末に「Grammar for Communication」を設け、新出文法と言語活動の関連が取り上げられている。 ○言語活動において必要な語彙が「Tool Box」「Stage Activity」等に取り上げられている。新出語句を扱う「New Words」で発信語彙を太字で表記している。</p>	
<p>資 料</p>	<p>○巻頭には、「目的や場面、状況に合わせてコミュニケーションをしよう」や「学習の見通しを立てよう」があり、何を学習するのか見通しが立てられるように工夫がされている。巻末の「Word Room」では、ジャンル別の補充単語・表現が掲載されている。 ○各単元内のセクションごとにQRコードが掲載され、単語や本文の文字とその音声、スライドアニメをスマートフォンなどで再生ができるよう工夫がされている。</p>	
<p>表記・表現</p>	<p>○1年生全編で独自の手書き文字に近い書体を使用し、2、3年生は手書き文字に近い書体と活字体を併用している。1年生は、アクセントは各単語に付記し、発音記号は巻末に掲載してある。2、3年生は、アクセント、発音記号が水色で併記されている。</p>	
<p>総 括</p>	<p>○「Preview」で単元の場面などを想起し、単元後に配されている「Stage Activity」に向けて「Mini Activity」「Unit Activity」で学習を積み上げていく構成になっている。1年生の早期に「話す」「聞く」活動を通して小学校で扱った表現を取り上げている。また、高校以降の学習に備え段階的に読む語数を増やす構成としている。</p>	

<p>書名 項目</p>	<p style="text-align: center;">SUNSHINE ENGLISH COURSE</p>	<p style="text-align: center;">9 開隆堂</p>
<p>内 容</p>	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各單元では、「Scenes」のマンガを見ながら新出表現を視覚的に理解できるように工夫がされている。また、「Scene」の1～3までのストーリーはつながっており、単元で学ぶ新出表現をまとめて導入することもできるようになっている。 ○各単元の「Scenes」で理解した表現を「Listen」、「Speak」、「Write」の3段階の活動を通して使い方に慣れ、各技能を伸ばすことができるようになっている。「Steps」では発信の技能を身に付け、「Our Project」につながる仕組みになっている。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元の「Think」で内容を整理し、「Retell」で発表し、「Interact」で必然性のある場面設定でのやり取り、「Reading」の終わりに自己表現活動がある。また、「Our Project」では、「Program」の既習事項を活用し5領域を統合した活動を通して、思考力、判断力、表現力を高める構成になっている。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「Interact」や「Our Project」では自分の考えをもたせた上で、目的や相手を意識したコミュニケーション活動を通して、相手にわかりやすく伝える力をつける工夫がされている。日本の伝統文化、国際理解を深める題材やSDGsに関連した題材等、多面的かつ世界的な視野で取り上げられている。 <p>＜聞くこと、読むこと、話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各單元最初のページの「Goal」で単元の目標が記され、各目標が單元内のどの活動と関連しているかマークで示されている。巻末には「英語で『できるようになったこと』リスト」として領域ごとの3年間の目標が設定されている。 ○各単元に「Scenes」を設け、新出文法がどのような目的や場面で使われるのか視覚的に示している。「Interact」では、当該単元で学んだ表現を使って言語活動を行う構成になっており、新出文法と関連付けられている。 ○言語活動に必要な語彙が「Word Box」「Steps」等に取り上げられている。「New Words」の発信語彙は太字、受容語彙は一般語彙と感嘆語、短縮形等に分けて表示している。 	
<p>資 料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○巻頭には各単元の構成が示されており、学習の見通しが持てるように工夫されている。各単元の「Scenes」では、イラストとともに学習する言語材料が掲載されている。巻末の「アクションカード」には表現活動に活用する語彙や表現が掲載されている。 ○各単元のセクションごとにQRコードが掲載され、本文の音声とスライドをスマートフォンなどで再生ができるよう工夫されている。 	
<p>表記・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○1年生前半は独自の手書き文字に近い書体、後半は活字体に近い書体を使用し、2、3年生は、活字体とブロック体を併用している。各学年共通でアクセントは各単語に水色で付記し、発音記号は巻末資料に掲載してある。 	
<p>総 括</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○各単元は、基礎・基本を習得し、題材について考え、自分の言葉で本文を語り、自己表現する力を身に付けるという流れで学習し、「Our Project」で5領域の統合的な活動につなげる構成となっている。また、小学校英語で学んだ表現を帯活動等で繰り返し使う機会を設けている。3年生では、論理的な説明文や1000語超の物語文を読む機会を設けている。 	

<p>書名 項目</p>	<p>NEW CROWN English Series</p>	<p>15 三省堂</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○各単元の「GET」における「POINT」では、その解説文とともに文法事項や文構造を整理・理解させるようになっている。「Drill」において、「POINT」の文の語句を入れ替えながら繰り返し練習し、基礎的な力を身に付けさせる仕組みとなっている。 ○「GET」で学んだ知識を用いて、「Listen」で聞く力を、「Speak」「Talk」「Write」で新出文法を含む英文を使って発信する力を身に付けさせるようになっている。「Get Plus」では、実際のコミュニケーションで活用する力を養うようになっている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○単元の「Use」では、意見・説明・物語文で構成された「Read」で情報を整理し、「Speak」と「Write」で目的や場面、状況に応じた自己表現活動がある。また、「Project」では、単元の既習事項を活用し、5領域を統合した活動を通して、思考力、判断力、表現力を高める構成になっている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○「USE Speak」や「USE Write」、「Project」において目的や場面・状況に応じて相手意識をもたせ、互いを認め合いながら表現できるようになっている。「ことばを使う」、「かかわる」、「考える」、「学ぶ」を軸に選ばれた異文化理解や伝統文化等の題材を通して、SDGs等の現実の様々な課題に対応できるように工夫されている。</p> <p><聞くこと、読むこと、話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫> ○裏表紙には領域ごとに育成したい目標が「What Can I Do?」で示されている。各単元の最初のページには活動内容や活動目標が示されており、学習の見通しを立てることができるよう工夫されている。 ○各単元の「GET」の中に「Talk」や「Speak」の活動を入れ、新出文法を用いた言語活動を行うようになっている。「GET Plus」における場面設定を明確にした言語活動と、次ページの「文法のまとめ」における新出文法との関連付けがされている。 ○言語活動において必要な語彙が「Word Bank」「Idea Box」等に取り上げられている。新出語彙を扱う「Words」において、発信語彙を太字で示している。</p>	
<p>資 料</p>	<p>○巻頭には「この教科書のしくみ」とともに学びのサイクルや身に付けたい力を視覚的に意識できるようになっている。巻末には「会話を進める表現」「ロールプレイシート」を掲載し、発信力を高めるように工夫されている。 ○各単元のセクションごとにQRコードが掲載され、単語や本文の音声や実写映像をスマートフォンなどで再生ができるよう工夫されている。</p>	
<p>表記・表現</p>	<p>○1年生から独自の書体、UDフォント、ブロック体、活字体を段階的に使用し、2、3年生は併用している。1年生は、アクセントは各単語に付記し、発音記号は巻末に掲載してある。2、3年生は、アクセント、発音記号が併記されている。</p>	
<p>総 括</p>	<p>○各単元は、基礎の習得から各領域の活動を通して活用する力を身に付ける構成になっている。1年生の「Lesson」の導入は、小学校で体験した場面での対話や発表を聞いて学びを振り返る設定になっており、小学校との接続を意識した内容となっている。また、3年生の最長の読み物教材は高校で扱われる英文を意識した語彙数となっている。</p>	

書名 項目	<h1 style="text-align: center;">ONE WORLD English Course</h1>	17 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">教 出</div>
内 容	<p>＜知識及び技能が習得されるようにするための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各単元の「Key Sentence」では、新出文法を扱った例文が示され、その右側の「Notes」では意味・形・用法が説明されている。また、「Tool Kit」では、例文で使用されている語句を入れ替えながら練習し、新出文法の定着が図れるようになっている。 ○各単元の「Think & Try!」では、当該単元で学習した本文の一部を活用し、話したり書いたりする表現活動が設定されている。「Tips」のコーナーでは、5領域それぞれの技能を高めるためのコツが紹介されている。 <p>＜思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○単元の各「part」で目的・場面・状況を捉え理解を深め、情報整理の「Review」、発表の「Task」、自己表現の「Think & Try!」がある。また、「Project」では、単元の既習事項を活用し5領域を統合した活動を通して、思考力、判断力、表現力を高める構成になっている。 <p>＜学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「Project」では、既習の知識・技能を総合的に活用し、グループなどで他者と協働を通して課題を達成していく活動ができるようになっている。SDGsとの関連も含めて世界の多様なあり方と課題について自分のこととして向き合う題材が取り上げられている。 <p>＜聞くこと、読むこと、話すこと〔やり取り〕、話すこと〔発表〕、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻末には「CAN-DO 自己チェックリスト」があり、各領域の目標ごとに関連単元等が示されている。単元末に単元目標の達成状況を振り返ることができるように工夫されている。 ○単元末の「Think&Try!」では新出文法を用いた言語活動を行えるようになっている。また、「Task」では、学んだ言語材料を用いて5領域の統合的な活動を行うことで、新出文法と関連付けられるような構成となっている。 ○言語活動に必要な語彙が「Tool Kit」「Tips」等に取り上げられている。新出語彙を扱う「Words&Phrases」で発信語彙の中から「特に覚えたい語」を太字で示している。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○巻頭には学びの流れが示され、学習の見通しが立てられるような工夫がされている。巻末の「Activities Plus」では、マスキングシートを活用して、重要な語句や文、表現を学習できるように工夫されている。 ○各単元の最初のページにQRコードが掲載され、本文の音声をスマートフォンなどで再生ができるよう工夫されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○1年生初期からUDフォント、ブロック体、ローマン体を併用している。1年生は、アクセントは各単語に付記し、発音記号は巻末に掲載してある。2、3年生は、アクセント、発音記号が併記されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○各単元において三つの「Part」を通して学んだことを巻末の「Activities Plus」を活用して確認、定着をさせ、「Project」において5領域の統合的な活動を通して自己表現をするという構成となっている。1年生では小学校で学んだ表現をゲーム等の活動で復習する「Springboard」があり、小学校との接続が意識されている。 	

<p>書名 項目</p>	<p>Here We Go! ENGLISH COURSE</p>	<p>38 光村</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○各単元は「Part」ごとに分かれ、「Listen」、「Speak」、「Write」コーナーの各活動を行なった後、「基本文」を扱うことで使いながら学んできた新出文法を確かめたり整理したりすることができる構成になっている。 ○各「Part」の本文、「Listen」、「Speak」、「Write」の言語活動は各単元の一貫したCAN-DO形式の目標が設定されている。巻末の「Let's Talk」は、継続的に扱うことで、やり取りや発表の際に用いる表現の練習ができる教材となっている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○単元の各「part」で目的・場面・状況を捉え理解を深めた後、情報整理、発表の「Goal」、自己表現の「About You」がある。また、「You Can Do It!」では、「Unit」の既習事項を活用し5領域を統合した活動を通して、思考力、判断力、表現力を高める構成になっている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○単元末の「Goal」と「You Can Do It!」では学んできた知識・技能を使い、複数の領域を横断した活動に取り組み、グループで協働学習できるようになっている。多様な考え方の理解、文化、人権などSDGsとの関連も含めて様々な題材で構成されている。</p> <p><聞くこと、読むこと、話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫> ○各単元の最初のページに領域の単元目標が提示されており、単元末の「Goal」の言語活動を通して目標達成について振り返る構成となっている。巻末の「CAN-DO List」には、領域ごとの目標とそれに関連する単元が示されている。 ○各「Part」に「Speak」を設け、学んだ表現を活用する目的や場面が分かるよう工夫されている。単元末の「Active Grammar」では、当該単元で学んだ表現を活用する具体的な状況を設定し、文型・文法と実際の使用場面との関連が取り上げられている。 ○言語活動に必要な語彙が「Word Board」「Goal+」等に取り上げられている。新出語彙を扱う「New Words」において、発信語彙を太字で示している。</p>	
<p>資 料</p>	<p>○巻頭には教科書の構成とともに3年間を通しての到達目標が示されており、学習の見通しが立てやすくなっている。巻末には「Let's Talk!」が付属しており、場面に応じて会話をする力が付けられるようになっている。 ○各単元の「part」ごとにQRコードが掲載され、本文の音声やスライドアニメ、実写映像をスマートフォンなどで再生ができるよう工夫されている。</p>	
<p>表記・表現</p>	<p>○1年生初期は独自の手書き体を使用し、その後、ブロック体、セリフ体を併用している。1年生においては、アクセントは各単語に付記し、発音記号は巻末に掲載してある。2、3年生は、アクセント、発音記号が青色で併記されている。</p>	
<p>総 括</p>	<p>○本文の内容は3年間ひと続きのストーリーから成っており、登場人物の成長を通して、本文の内容に生徒が共感しやすい内容となっている。小学校との接続を意識して、1年生巻頭では、全て小学校で学んだ語句と表現で構成されている。3年生では高校の学習への目標をもてるよう「英語のトレーニングを続けていこう」のページがある。</p>	

<p>書名 項目</p>	<p>BLUE SKY English Course</p>	<p>61 啓林館</p>
<p>内 容</p>	<p><知識及び技能が習得されるようにするための工夫> ○各単元の「Target」では新出文法を含んだ例文が解説とともに示されている。「Practice」や「Use」では、「Tool Box」の表現とともに新出文法の形に慣れるための発話練習を行う仕組みになっている。 ○各「Part」において、学習の流れが統一されており、一貫した形で新出事項を理解させるようになっている。「Let's」シリーズでは、「話す」「聞く」「読む」の各技能を、身近な場面や状況に設定して学習できるよう工夫されている。</p> <p><思考力、判断力、表現力等を育成するための工夫> ○単元の各「Part」で目的・場面・状況を捉え、「Read and Think」で整理した情報をもとに自分の意見や考えを持ち、「Express Yourself」で自己表現する機会がある。また、「Project」では、単元の既習事項を活用し、5領域を統合した活動を通して、思考力、判断力、表現力を高める構成になっている。</p> <p><学びに向かう力、人間性等を涵養するための工夫> ○「Use」、「Express Yourself」、「Project」では、自分の意見や考えについて他者を意識しながら伝え合う学習ができる構成になっている。各学年人権、福祉、自然など外国の話題について取り上げ、SDGsとの関連も含めて自国との相違点に気付かせるなど国際理解や異文化理解を深められるようになっている。</p> <p><聞くこと、読むこと、話すこと[やり取り]、話すこと[発表]、書くことなどのコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための工夫> ○各単元の扉には各「Part」の目標が示されている。巻末には領域ごとの「Can-Doリスト」に3年生までの達成目標が示されており、学習の見通しがもてるよう工夫されている。 ○各「Part」に「Practice」「Use」を設け、新出文法を使った言語活動に取り組めるようになっている。「Targetのまとめ」の「Let's Try」では、テーマについて学んだ表現を用いての言語活動が設定されており、新出文法との関連付けがされている。 ○言語活動に必要な語彙が「Tool Box」「Notes」等に取り上げられている。新出語彙を扱う「Words」で、特に身に付けたい語彙を「必修重要語」として太字で示している。</p>	
<p>資 料</p>	<p>○巻頭には教科書の使い方が示されており、学習の進め方が視覚的に分かるようになっている。巻末には「Word Box」が掲載されており、場面に応じた表現力が高められるようになっている。 ○各単元の「Party」ごとにQRコードが掲載され、単語や本文の文字と音声をスマートフォンなどで再生ができるよう工夫されている。</p>	
<p>表記・表現</p>	<p>○1年生はUDフォント、2年生はブロック体と活字体を併用、3年生は活字体を使用している。1年生は、アクセントは各単語に付記し発音記号は巻末に掲載してある。2、3年生は、アクセント、発音記号が併記されている。</p>	
<p>総 括</p>	<p>○各単元で新出表現を含んだ本文を読んで理解を深め、自己表現をする活動を行った後、「Project」において5領域を統合的に活用する活動へつなげる構成となっている。1年生の巻頭では小学校で学んだ語彙・表現を用いて学習を行い、定着を図る構成になっている。3年生にはディスカッションや長文作文の活動があり、高校への接続が意識されている。</p>	

外国語科（英語） 調査資料 2

○分量について

内容	学年	東書	開隆堂	三省堂	教出	光村	啓林館
1 総ページ数 ※ 目録に記載されたページ数	1年	174	172	186	176	190	158
	2年	166	172	178	178	190	166
	3年	162	164	186	178	190	150
2 新出総単語数	1年	1004	1005	1131	1109	960	867
	2年	714	563	890	575	605	659
	3年	649	538	540	483	623	439
	合計	2367	2106	2561	2167	2188	1965

○領域別教材数等（言語活動）について

※ 2は3の合計 3③は言語活動と本文を合わせた教材数

内容	学年	東書	開隆堂	三省堂	教出	光村	啓林館	
1 単元数 (Lesson, Program, Unit 等)	1年	11	10	8	9	8	10	
	2年	7	8	7	9	8	8	
	3年	6	7	7	7	8	6	
2 総教材数	1年	215	193	153	140	165	199	
	2年	208	183	144	145	186	190	
	3年	175	159	127	116	157	147	
3 領域別教材数	① 主に聞くこと	1年	55	53	32	53	66	41
		2年	15	46	26	49	71	37
		3年	17	40	23	29	60	27
	② 主に読むこと	1年	38	21	29	43	32	35
		2年	53	17	35	55	43	33
		3年	37	15	34	58	30	28
	③ 主に話すこと【やり取り】	1年	45	58	43	19	32	60
		2年	37	53	36	12	33	39
		3年	29	48	27	6	32	30
	④ 主に話すこと【発表】	1年	26	12	12	14	6	26
		2年	37	16	15	15	8	46
		3年	38	11	18	12	9	33
	⑤ 主に書くこと	1年	51	49	37	11	29	37
		2年	66	51	32	14	31	35
		3年	54	45	25	11	26	29

○文種別教材数（本文）について

内容	学年	東書	開隆堂	三省堂	教出	光村	啓林館
1 物語・詩	1年	1	1	1	4	1	2
	2年	2	1	2	2	1	1
	3年	2	1	2	1	1	1
2 説明文・意見文・感想文	1年	9	0	14	7	4	6
	2年	22	10	14	13	11	16
	3年	20	14	15	16	21	14
3 対話文・スキット	1年	34	33	11	20	24	34
	2年	12	25	15	20	23	23
	3年	9	17	15	12	13	18
4 その他 (伝言・手紙・メール文を含む)	1年	5	1	11	2	5	0
	2年	7	1	5	3	6	1
	3年	5	2	5	4	3	2

○その他

内容	東書	開隆堂	三省堂	教出	光村	啓林館
1 世界の人々や日本人の日常生活や風俗習慣に関する題材	①クリケット、朝食、サッカー、ニュージーランドの生活、日本の夏祭り、シドニーフェスティバル、フィリピン、世界的な課題、ロンドンの年越し、日本の正月 ②福井、シンガポールの生活、海外旅行のおみやげ、日本と外国の食文化、AIアメリカの生活、日本の習慣やマナー、ユニバーサルデザイン、映画 ③世界の言語、パラリンピック、防災、投票、日本の文化、国際協力、食品の選択	①ジュニア・セーフティー・パトロール、世界の果ての通学路、フィンランド、正月 ②屋台、ごんぎつね、日本のポップカルチャー ③日本の弁当文化、睡眠、手話、AI、イグノーベル賞	①インドの文化、ロンドンの文化、アメリカの学校生活、車いすバスケット、マニフェスト、アリス、すし ②ピーターラビット、日本の文化、星の王子さま、世界の暮らし ③音楽、まんが、インドの生活、英語の名言	①オーストラリアの学校生活、北海道の自然、ピクトグラム ②しまなみ海道、松山市、ジェスチャー、サンタラン ③赤毛のアン、オリンピック、アメリカのニュース報道	①世界の中学生 ②ニューヨークへの旅行、地震への備え、富士五湖、日本の絵文字文化 ③世界中の学校生活、AIテクノロジーと言語	①金沢市、アメリカの学校生活、アメリカの食事 ②シンガポールのマナー、ニュージーランドで人気のスポーツ、日本の町おこし ③世界の食文化、オリンピック

内容	東書	開隆堂	三省堂	教出	光村	啓林館
2 世界や日本の伝統文化に関する題材	①日本の伝統文化に取り組む外国人、落語 ②ブロードウェイミュージカル ③俳句	①書道・かるた	①神社、落語、風呂敷・花火・うどん ②中国茶、落語	①日本の中にある海外文化マンガ文化 ②日本の建築物、鎌倉の大仏、ハロウィーンとお盆 ③異文化交流、日本料理	①お正月 ②日本の伝統文化紹介、アボリジニー ③韓国の文化、世界の中学生の環境を守る取り組み	①マンガ文化 ②ニュージーランドのマオリ族、秋田県の竿燈祭、新潟県の長岡祭り、スペインのトマト祭り、タイの水かけ祭り ③日本の伝統文化紹介
3 世界の地理や歴史に関する題材 (平和に関する学習を含む)	①ロンドンの名所、富士山 ②時計の歴史、世界遺産、原爆、ガンディー、八田與一	①オーストラリア ②人種差別、日本とトルコの友好、原爆、佐々木禎子、杉原千畝 ③バスケットボール、忠実な象、チョコレートの歴史、マララ・ユスフザイ	①オーストラリア、ニュージーランド ③佐々木禎子、人種差別、A Moment of Peace	①アメリカの自然 ②グランドキャニオン ③カナダ、第二次世界大戦、国際支援、広島平和記念公園	②オーストラリアの面積と人口、ウルル、グレートバリアリーフ、アボリジニーアート、世界遺産巡り ③広島平和記念公園	①ニューヨーク ②国の面積・平均寿命ランキング ③ライト兄弟、月面着陸、広島平和記念公園
4 自然科学に関する題材	①世界の水問題 ②アラスカの環境問題 ③食物連鎖、レッドリスト、エネルギー	②バンフ国立公園、生物をヒントにした技術 ③海のゴミ問題	①グリーンフェスティバル、富士山 ②ワルカ・ウォーター・プロジェクト ③自然から学ぶ	①環境問題(ゴミ処理、温暖化) ②動物の生態、再生可能エネルギー ③環境問題(野生生物)	③絶滅危惧種、環境問題(プラスチックゴミ)	②動物の生態 ③野生動物の保護
5 最長読み物教材 総単語数()は 付録読み物	①230(260) ②397(323) ③509(589)	①243 ②294 ③346(1006)	①198(132) ②355(223) ③473(410)	①231(343) ②340(539) ③615(602)	①112(155) ②396(214) ③517(465)	①127 ②463 ③440
6 スピーチの取扱い	①6 ②9 ③14	①6 ②11 ③11	①9 ②8 ③8	①12 ②8 ③6	①6 ②8 ③10	①3 ②8 ③10
7 文法事項の説明 に関するページ数	①10 ②6 ③6	①10 ②8 ③7	①9 ②7 ③7	①12 ②9 ③6	①6 ②9 ③2	①10 ②6 ③5

※①は1年生、②は2年生、③は3年生を表している。

道徳科調査資料 作成の観点

書名	○○○○ ○○○○○	発行者番号 発行者名
項目		
内 容	<p>＜学習指導要領の教科の目標に関わる工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○道徳的価値の意義及びその大切さなどを自分との関わりで理解させるために、どのような工夫が見られるか。 ○自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、人間としての生き方についての考えを深めさせるために、どのような工夫が見られるか。 ○自立した人間として他者とよりよく生きるための基盤となる道徳性（道徳的判断力、道徳的心情、道徳的実践意欲と態度）を育成するために、どのような工夫が見られるか。 <p>＜現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○現代的な課題についてどのように取り上げ、その解決に向けて考え続ける意欲や態度を育てるために、どのような工夫が見られるか。 ○問題意識をもって多面的・多角的に考えたり、感動を覚えたりするために、どのような工夫が見られるか。 <p>＜発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○発達の段階に即し、ねらいを達成する上で、どのような工夫が見られるか。 ○深く考えることができ、人間としてよりよく生きる喜びや勇気を与えるために、どのような工夫が見られるか。 <p>＜「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○考えを深め、判断し、表現する力などを育むことができるよう、自分の考えを基に討論したり書いたりするなどの言語活動を充実するために、どのような工夫が見られるか。 ○問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習に関して、どのような工夫が見られるか。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○学習意欲を喚起するために、読み物教材にはどのような工夫が見られるか。 ○効果的に活用するために、挿絵や写真、図などにはどのような工夫が見られるか。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○教材の内容を把握しやすくさせるために、仮名遣いや用語などにはどのような工夫が見られるか。 ○主な記述（読み物教材など）と道徳科の内容項目との関係の示し方にはどのような工夫が見られるか。 	
総 括	(全体的な特徴、その他)	

<p>書名 項目</p>	<p>新訂 新しい道徳</p>	<p>2 東 書</p>
<p>内 容</p>	<p>＜学習指導要領の教科の目標に関わる工夫＞ ○教材冒頭の見出しでは、内容項目に関連したテーマを設定することにより、授業を通してねらいからぶれないようにするとともに、導入で問題を提起してから教材に入るという問題解決的な学習の流れにより、価値理解を深めるよう工夫されている。 ○自己を見つめるため、巻末に自己評価用紙が設けられている。多面的・多角的に考える力を育むため、一つの事象について教材を読んだりグループで話し合いをしたりする中で、道徳的価値を理解しながら問題解決を図る教材が配置されている。 ○教材末尾に「考えよう」や「自分を見つめよう」の問いを設け、授業で学んだ道徳的諸価値を道徳性の育成につなげる工夫がされている。また、「心情円」を活用することで、考えや思ったことを可視化できるよう工夫されている。</p> <p>＜現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫＞ ○「いじめ問題」と「生命尊重」について問題対応ユニットを配置し、複数教材を通していろいろな角度からそれぞれの問題の考えを深めるよう工夫されている。 ○各学年に「情報モラル」に関する教材を配置し、SNSでのいじめなど新しい問題を掲載している。また、スマートフォンの画面を配置するなど工夫されている。</p> <p>＜発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫＞ ○1年生は郷土の学習、2年生は国の学習、3年生は国際理解の学習を重点項目に設定し、考える範囲が段階的に広がっていくよう配慮されている。 ○小中の関連を図った教材を用意したり、3学年の発達の段階を考慮して教材を配置したりするなど、系統的に学習できるよう工夫されている。</p> <p>＜「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫＞ ○「話し合いの手引き」では、話し合いの手順やルールを具体的にし、学習の際にも折り込みページを同時に活用できるよう工夫されている。 ○全学年に役割演技などの手立てを示す「ACTION」を掲載し、話し合いや体験的な学習を通して考えが深まるよう工夫されている。</p>	
<p>資 料</p>	<p>○教材によっては、あらすじや登場人物の説明が記されており、教材の内容を理解する手助けになっている。教材の文章は短時間で読めるものが用意されている。 ○導入で活用する漫画や挿絵（イラスト）を見ながら考える教材が掲載されている。 ○Dマークを付した題材では、教材内容を補足するデジタルコンテンツが用意されている。</p>	
<p>表記・表現</p>	<p>○心情円やホワイトボード用紙の収納、UDへの配慮がされている。 ○漢字は、小学校配当外漢字の教材初出箇所や固有名詞には振り仮名が付されている。難解な表現は避けるように配慮されており、難解な言葉や必要な情報は脚注で必要に応じてイラストや写真を交え、解説されている。 ○目次と教材冒頭に学習指導要領の四つの視点が色とマークで示され、ねらいとなるテーマが示されている。索引は四つの視点と内容項目ごとに分類して示されている。</p>	
<p>総 括</p>	<p>○巻末に設けられている自己評価用紙と心情円で、自己を見つめたり考えを可視化したりできるよう工夫されている。 ○3学年の発達の段階に合わせて、系統的な学習ができるよう教材が配置されている。</p>	

書名 項目	<h1>中学道徳 とびだそう未来へ</h1>	17 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">教 出</div>
内 容	<p>＜学習指導要領の教科の目標に関わる工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習の流れを分かりやすく提示し、各教材に設定された「導入」で学習の目的をつかみ、「学びの道しるべ」では三つの問いを連携させて自分との関わりで考えを深めることにより、道徳的諸価値の意義や意味について理解を深めるよう工夫されている。 ○教材冒頭の導入で生徒の経験や考えを想起させたり、教材末尾の「学びの道しるべ」で自分に引き付けて考えたりできるよう工夫されている。巻頭のページに、多様な考えを深める学習場面が例示され、話合いのイメージがつかめるよう工夫されている。 ○教材末尾の「学びの道しるべ」の問いを通して、道徳的諸価値の理解を深め、道徳性の育成が図れるよう工夫されている。また、巻末に「道徳の学びを振り返ろう」を設け、自分の成長を実感し、課題や目標を見つけることができるよう工夫されている。 <p>＜現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「いじめ問題」、「差別問題」、「生命の尊さ」について深く考える教材を複数組み合わせたユニットを設け、重層的に考え、深めていくことができるよう工夫されている。 ○発達の段階に合った生活場面から「情報モラル」について考える教材が掲載され情報機器を通してよりよい人間関係について主体的に話し合えるよう工夫されている。 <p>＜発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全学年を通して取り組みやすさが重視されており、生徒が無理なく学習できるよう、短い教材や見て分かる教材が掲載されている。 ○各学年の教材は、発達の段階に即して各視点の取り扱う教材の比重を変えており、内容が分かりやすく、考え、議論する時間が取れるよう配慮されている。 <p>＜「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○巻頭オリエンテーションでは、「道徳科の学びを深めるために」と題し、問題解決的な学習への取組方法を示すことで学習に主体的に取り組めるよう工夫されている。 ○体験的な学習を伴う「やってみよう」の活動は、全てその直前の教材に関連しており、授業とリンクするよう工夫されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○読み継がれてきた教材や理解しやすい短めの教材、見てわかる教材が掲載されている。歴史や文化、スポーツなど、様々な分野で活躍した人物を取り上げている。 ○挿絵や漫画、大きな写真などを使うことで、興味・関心を引き出している。 ○「まなびリンク」マークがある題材は、教材内容を補足する専用のウェブサイトが用意されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○取り組みやすさが重視され、教材の工夫やUDへの配慮がされている。 ○漢字は、小学校配当外漢字の教材初出箇所や固有名詞には振り仮名が付されており、内容を理解し、読み進めることができるよう配慮されている。難解な言葉や読み取りのために必要な情報は脚注で必要に応じて写真を交え、解説されている。 ○目次と教材ごとに学習指導要領の四つの視点が色とマークで示され、テーマごとに関連した教材が示されている。巻末に、四つの視点と内容項目一覧が示されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○教材冒頭の導入と教材末尾の「学びの道しるべ」で、生徒が流れとポイントをおさえながら道徳的諸価値について考えられるよう工夫されている。 ○実際の行動と結び付けて道徳的諸価値を学べるよう、「やってみよう」を設けている。 	

<p>書名 項目</p>	<p>中学道徳 きみが いちばん ひかるとき</p>	<p>38 光村</p>
<p>内 容</p>	<p><学習指導要領の教科の目標に関わる工夫> ○授業での学びの道すじがわかる「てびき」が各教材に設けられ、めあてによる課題設定により教材を通して何を学ぶのかが意識できる。さらに道徳的諸価値についての理解や自覚を促す発問により、自分に引き付けて考えを深めるよう工夫されている。 ○教材末尾の「考えよう」に即した発問とは視点を変えた問いである「見方を変えて」を設け、多面的・多角的に考える力を育めるよう配慮されている。巻末に「学びの記録」を設け、自己を見つめ、振り返ることができるよう工夫されている。 ○教材末尾に「つなげよう」が設けられ、日常生活や他教科との関連、関連図書の紹介などが示されており、学んだ道徳的諸価値が他教科や日常生活につながるよう配慮されている。</p> <p><現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫> ○「いじめ問題」と「情報モラル」について、全学年に主体的・対話的で深い学びを実現するための「深めたいむ」を設け、3年間を通して考えるよう工夫されている。 ○全学年に「生命の尊さ」をテーマとした3教材を掲載して様々な視点で捉える工夫をし、「学びの記録」を巻末に位置付け、変化や成長を振り返る工夫がされている。</p> <p><発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫> ○教材の登場人物への自我関与が中心の学習、問題解決的な学習、道徳的行為に関する体験的な学習を織り交ぜ、道徳的諸価値の自覚を深められるように工夫されている。 ○生活実態や発達の段階に合わせて、学年ごとに傾斜をつけ配当し、重点項目は複数教材で扱い、学習経験となるよう配慮されている。</p> <p><「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫> ○各学年の第1教材に「道徳の授業を始めよう」を設定し、学年の段階に応じて目的意識をもちながら授業に取り組めるよう工夫されている。 ○各学年に1教材、役割演技への取組が提案されており、演じる側や見る側に意識させたいポイントを示すことで、役割演技の質を高めるよう工夫されている。</p>	
<p>資 料</p>	<p>○教材がテーマをもって配列されていて、関連ある内容項目がまとめて構成されている。読み物教材に加えて、絵本や漫画形式、データや資料を使った教材がある。 ○教材内容の理解を助け、イメージを広げる絵や写真が適所に掲載されている。 ○QRコードが教材タイトルの下にある題材には、教材内容を補足するデジタルコンテンツが用意されている。</p>	
<p>表記・表現</p>	<p>○一枚絵や写真の教材の掲載、UDへの配慮で見やすい紙面への工夫がされている。 ○漢字は、教材初出の固有名詞と小学校配当外の常用漢字全てに振り仮名が付されている。小学校配当外漢字を含む熟語は混ぜ書きを避け、全体に振り仮名が付されている。難解な言葉や必要な情報は脚注で解説されている。 ○教材冒頭に学習指導要領の四つの視点が色とマークで示されている。索引は四つの視点と内容項目ごとに教材を分類して現代的課題との関わりが示されている。</p>	
<p>総 括</p>	<p>○教材ごとに「てびき」が設定され、学習が深まるよう工夫されている。「広げよう」「深めたいむ」で、授業での学びが日常生活などにつながるよう工夫されている。 ○各学年に1教材、役割演技への取組が提案され、ポイントが示されている。</p>	

書名 項目	<p style="text-align: center;">中学道徳 あすを生きる 中学道徳 あすを生きる 道徳ノート</p>	<p style="text-align: center;">116 <input type="checkbox"/> 日 <input type="checkbox"/> 文</p>
内 容	<p>＜学習指導要領の教科の目標に関わる工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教材冒頭の主題名の明示により、主体的に見通しをもって学習に臨み、自分との関わりで道徳的諸価値の理解ができるよう配慮されている。教材末尾の「考えてみよう」では、ねらいに迫るとともに、様々な視点で考えを深めるよう工夫されている。 ○「学習の進め方」において、写真で対話的・協働的な学習場面が例示され、話合いや考えを深めるための工夫がされている。身近な人物から先人までの悩みや葛藤などの心の揺れや、それを乗り越える強さや気高さなどの多様な生き方が扱われている。 ○教材末尾に授業で学んだことを前向きに自分に生かす問いを設け、道徳性の育成につながられるよう工夫されている。また、「道徳ノート」には4項目5段階の自分への振り返りがあり、心の成長や変容を実感できる構成になっている。 <p>＜現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「いじめの未然防止」を重要テーマとし、複数の教材・コラムを組み合わせたユニットを年間に複数配置して、集中的・継続的に考えるよう工夫されている。 ○全学年で「情報モラル」に関わる教材やコラムを掲載し、情報社会の倫理や情報セキュリティに関わる内容について、発達の段階に応じて学習できる工夫がされている。 <p>＜発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○発達の段階や学校生活及び他教科の内容や時期との関係、内容項目間の関連を考慮し、複数の教材やコラムがユニット化され年間に複数配置されている。 ○中学校3年間の発達の段階を考慮し、系統的・発展的に学習できるよう1年生では「である」2年生では「みつめる」3年生では「ひらく」のテーマが設定されている。 <p>＜「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「道徳ノート」が別冊になっており、多様な話合いに対応させるため、友達の意見と自分の意見を左右で対比できるよう工夫がなされている。 ○「学習の進め方」では、問題解決的な学習や、道徳的行為に関する体験的な活動の流れが示され、主体的に考えることができるよう配慮されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○教材やコラムが学校の行事などと関連付けられ、年間計画に沿うよう配置されている。1時間の学習の流れが可視化され、学び合う場面が工夫されている。 ○教材の内容を理解するために大小様々な写真、挿絵などが掲載されている。 ○QRコードが示されている教材は、教材内容を補足するデジタルコンテンツが用意されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭や地域との連携、デジタル教材や規則的なページ構成、UDへの配慮がある。 ○漢字は、小学校配当外の常用漢字や固有名詞全てに振り仮名が付されている。難解な語句や教材の読み取りに必要な補足については、脚注や側注で必要に応じてイラストや写真を交え解説されている。 ○教材ごとに学習指導要領の四つの視点が色とマークで示されている。索引は四つの視点と内容項目ごとに分類して示され、目次はユニットのテーマが示されている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○教材冒頭と教材末尾で、様々な視点で道徳的諸価値の理解を深め、「道徳ノート」では心の成長や変容を振り返ることができるよう配慮されている。 ○3年間で系統的・発展的な学習になるよう、テーマやユニットが設定されている。 	

書名 項目	新・中学生の道徳 明日への扉	224 学 研
内 容	<p> <学習指導要領の教科の目標に関わる工夫> ○巻頭の「考えを深めるための4つのステップ」では具体的な展開例を示し、道徳的諸価値を自分との関わりで理解させる手立てとしている。教材冒頭のキーフレーズは、主体的に向き合い課題を発見し、考えを深めることができるよう工夫されている。 ○視点や内容項目の異なる複数の教材を関連させ、広い視野で考えられるよう工夫されている。従来の読み物だけではない、絵や写真、図やグラフなどの素材で構成した教材を充実させ、多様な視点から問題意識を喚起する工夫がされている。 ○「クローズアップ」を中心に道徳での学習を日常生活に生かし、道徳性の育成につながられるような工夫がされている。また、巻末の「学びの記録」にて自身の成長を振り返り、課題や目標を見付けられるよう配慮されている。 </p> <p> <現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫> ○「命の教育」を重点テーマとし、「生命の尊重」と「いじめ防止」に関する題材を三つのテーマで取り扱い、各学年において3教材掲載する工夫がされている。 ○「情報モラル」について発達の段階に合わせて各学年2教材を配置している。また、そのうち1教材は共通のイラストを使用し系統的に扱えるよう工夫されている。 </p> <p> <発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫> ○同じ内容項目を扱う教材は、内容の深まりや視野の広がりといった学年ごとの工夫がされており、生徒の生活実態や発達の段階に配慮されている。 ○学年ごとに、生徒の発達の特質に応じたテーマを設け、該当項目に複数教材を用意するなど、指導内容の重点化が工夫されている。 </p> <p> <「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫> ○生徒が特定の価値観に縛られず、主体的に問題意識をもち、柔軟に考えることができるように教材の冒頭に主題名を記載しない工夫がされている。 ○「深めよう」では、問題解決的な話し合いや、役割演技などの手立てが提示され、学習のめあてや流れを理解しやすくするよう工夫されている。 </p>	
資 料	<p> ○教材ごとに生徒の興味を引くひと言や授業に向き合うためのキーフレーズが記されている。様々な分野で活躍する人物、先人たちにに関する教材がある。 ○挿絵や写真、グラフなどを使い、生徒自らの知識や能力を生かす工夫がされている。 ○QRコードが示されている教材には、内容と関連するデジタル教材等が見られるようになっている。 </p>	
表記・表現	<p> ○授業のしやすさを考えた流れの見えるページ構成、色やマーク、UDへ配慮がある。 ○漢字は、小学校配当外漢字や教材初出の固有名詞に振り仮名が付され、漢字の学習状況に関わらず、読み進めることができるように配慮されている。教材を読み取るために必要となる言葉や固有名詞は脚注で解説されている。 ○目次と教材は学習指導要領の四つの視点が色とマークで示されている。ユニットのテーマは色付けがされている。索引は四つの視点と内容項目で分類し示されている。 </p>	
総 括	<p> ○道徳的諸価値を自分との関わりで理解する手立てや、複数の教材を関連付けて多面的・多角的に考え、日常生活に生かし道徳性の育成につながるよう工夫されている。 ○発達の段階を系統的に考え、現代的な課題を議論できる手立てが提示されている。 </p>	

<p>書名 項目</p>	<p>中学生の道徳 中学生の道徳ノート</p>	<p>232 廣あかつき</p>
<p>内 容</p>	<p>＜学習指導要領の教科の目標に関わる工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○別冊の「道徳ノート」を併用する構成となり、「道徳ノート」で道徳的諸価値の解説を、教材末尾には内容項目に沿い価値理解を深める名言が提示されている。各教材では「学習の手がかり」の提示により、主体的な学習が促されるよう工夫されている。 ○教材末尾の「考える・話し合う」で視点の異なる複数の問いを設け、多面的・多角的に考える力が育めるよう配慮されている。「道徳ノート」では教科書の教材と同じ内容項目を扱う資料が配置され、学習がさらに深まるよう工夫されている。 ○教材末尾にて「考えを広げる・深める」の問いを設け、道徳性の育成につながるような工夫がされている。また、「道徳ノート」は、授業内容に応じて自分の考えを記述することで、心の成長や変容を実感できる構成になっている。 <p>＜現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○生命尊重を最重要項目と位置付け、全学年で3教材を掲載して様々な視点から捉える工夫をし、「いじめ防止」では四つの視点から考えを深めるよう工夫されている。 ○「情報モラル」について考えることのできる教材を全学年に掲載し、巻末に特集ページを設け、他の教育活動とも関連を図りながら活用できるよう工夫されている。 <p>＜発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学年が進むに従って、価値そのものを深く考え、哲学的に思考することができる教材や問いが精選され、発達の段階に応じて道徳的な思考が深まるよう工夫されている。 ○各学年の掲載教材のバランス等を考慮しつつ、重点と関連の深い内容項目に該当する教材を多く取り上げるなど、指導内容の重点化が工夫されている。 <p>＜「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「道徳ノート」には、内容項目ページと学習の記録ページを設け、話し合いの記録が取れるようにする等、多様な学習に対応できるよう配慮されている。 ○教材末尾に「考える・話し合う」の欄を設け、生徒が問題解決的な学習や道徳的な行為に関する体験的な学習に見通しをもって取り組めるよう工夫されている。 	
<p>資 料</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○見通しをもって学べるよう、考えたり話し合ったりする手がかりが掲載されている。教材と合わせて、または授業の展開に応じて活用できる補助資料が配置されている。 ○挿絵や写真があり、教材を読み進める上で生徒の思考を促すよう配慮されている。 ○「インターネット」のマークがある題材には、関わりのある補助資料を見られるデジタルコンテンツが用意されている。 	
<p>表記・表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○補助資料やUDでのイラスト配置などを考え、ゆとりある紙面構成がなされている。 ○漢字は、教材初出の固有名詞と小学校配当外の常用漢字全てに振り仮名が付され、内容を理解し、読み進めることができるよう配慮されている。難解な言葉や情報は、脚注で解説されている。 ○教材冒頭に学習指導要領の四つの視点が色とマークで示され、道徳ノートのページ数が付されている。巻末には、教材ごとに内容項目が示されている。 	
<p>総 括</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○「道徳ノート」の併用により、主体的な学習を促し、多面的・多角的に考え、道徳性の育成につながるのと同時に、心の成長や変容を実感できるよう工夫されている。 ○他の教育活動との関連で考える現代的な課題や発達の段階に応じ深まる教材がある。 	

書名 項目	<h1>道徳 中学</h1>	233 <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">日 科</div>
内 容	<p>＜学習指導要領の教科の目標に関わる工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分との関わりで問題と向き合い、考える経験を積み重ねていくことで授業のねらいを明確にする教材や、自己の判断基準となる価値観形成のために、道徳的諸価値の理解を基に多種多様な生き方と出会うことができる教材づくりが工夫されている。 ○多面的・多角的な見方、考え方ができる教材を掲載し、友達と議論をし、価値観の多様性を受け入れる寛容な心が育めるよう配慮されている。自己を見つめるため、巻末に心の成長を振り返るページが設けられている。 ○教材末尾に「考え、話し合ってみよう、そして深めよう」を設け、自己の生き方を見つめたり、どのように考え行動に移すかなどの道徳的問題を自分のこととして捉えたりすることで、道徳性の育成につなげられるよう工夫されている。 <p>＜現代的な課題などの題材を教材として取り上げる上での工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「いじめを許さない心」の根底にある「生命を尊ぶ態度」について複数教材を配置し、生命尊重への学びを深める多様な教材から、考えが深まるよう工夫されている。 ○「情報モラル」については社会では欠くことのできない情報機器との関わりについての教材を各学年に掲載し、自分ごととして話し合う工夫がされている。 <p>＜発達の段階に即しつつ、深く考えることができ、ねらいを達成する工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○1年生は自己の個性、能力、適正等について、2年生は自己啓発について、3年生は自己実現について、それぞれの道徳的問題に向き合えるよう配慮されている。 ○価値の多様性を受け入れる寛容な心を育む項目は、ワーク方式を取り入れ、思考と議論を年単位で積み重ねられるように工夫されている。 <p>＜「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ○各学年に1教材、ワークシートを付けたものがあり、自分の考えと友達の考えを比較することで、議論をしやすいよう工夫されている。 ○問題解決的な学習や道徳的な行為に関する体験的な学習ができる教材が設定されており、イラストとともに手立てが見やすく提示されている。 	
資 料	<ul style="list-style-type: none"> ○教師が生徒の実態や学校の計画等に沿って教材の配置や順序を変更することができる工夫がされている。同一の登場人物についてのシリーズ教材が掲載されている。 ○教材の場面理解を促す大小様々な挿絵や写真が掲載されている。 ○生徒にとって身近な生活体験や事象だけでなく、様々なジャンルの先人や著名人の生き方を扱った教材が掲載されている。 	
表記・表現	<ul style="list-style-type: none"> ○学習の手立てや場面理解を促す資料、魅力ある人物教材やシリーズ教材などがある。 ○漢字は小学校配当外漢字の教材初出箇所や固有名詞に振り仮名が付されており、内容を理解し、読み進めることができるよう配慮されている。難解な言葉や必要な情報は脚注で必要に応じて写真を交え解説している。 ○教材ごとに学習指導要領の四つの視点が色で示されている。目次と索引は、項目ごとに分類され、色で示されている。目次と教材の番号は内容項目に対応させている。 	
総 括	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳的諸価値の理解を基に、自己の生き方を見つめ道徳性を育成するため、友達と議論し多面的・多角的に考え、多様な生き方に出会う教材づくりが工夫されている。 ○発達の段階での連続性や現代的な課題が他領域とつながるよう配慮がなされている。 	

道徳科 調査資料 2

○総ページ数

※「日文」・「廣あかつき」は、道徳ノートが別冊となっている。

※ 目録掲載の
ページ数

学年	東書	教出	光村	日文	学研	廣あかつき	日科
1年	196	218	197	198+42	186	186+52	194
2年	204	202	205	198+42	198	170+52	194
3年	204	202	205	198+42	198	166+52	194

○内容項目の配当数

内容項目	学年	東書	教出	光村	日文	学研	廣あかつき	日科
自主、自律、 自由と責任	1年	2	2	2	2	2	3	1
	2年	2	1	2	2	2	3	2
	3年	2	2	2	2	2	3	2
節度、節制	1年	2	2	1	1	2	1	1
	2年	2	2	2	1	2	1	1
	3年	2	1	1	1	2	1	1
向上心、 個性の伸長	1年	1	1	1	1	1	1	2
	2年	1	1	2	1	1	1	2
	3年	1	1	2	1	1	1	1
希望と勇気、 克己と強い 意志	1年	1	2	1	1	2	2	1
	2年	1	2	2	1	1	2	1
	3年	1	1	2	1	1	2	2
真理の探究、 創造	1年	1	1	1	1	1	1	1
	2年	1	1	1	1	2	1	1
	3年	1	1	1	1	2	1	1
思いやり、 感謝	1年	3	3	3	2	2	3	2
	2年	2	3	1	2	2	3	1
	3年	2	1	2	2	3	3	2
礼儀	1年	1	1	1	1	1	1	1
	2年	1	1	1	1	1	1	1
	3年	1	1	1	1	1	1	1
友情、信頼	1年	2	2	2	3	3	2	3
	2年	2	2	2	3	2	2	3
	3年	2	2	1	2	2	2	3
相互理解、 寛容	1年	2	2	2	1	1	1	2
	2年	2	1	2	1	2	1	3
	3年	2	1	3	1	2	1	1
遵法精神、 公德心	1年	2	1	2	2	2	2	3
	2年	2	2	1	2	2	2	2
	3年	2	1	2	2	2	2	2
公正、公平、 社会正義	1年	2	1	2	2	2	2	3
	2年	2	2	2	2	1	2	2
	3年	2	1	2	2	1	2	2

内容項目	学年	東書	教出	光村	日文	学研	廣あかつき	日科
社会参画、 公共の精神	1年	2	1	1	2	1	1	3
	2年	2	3	1	2	2	1	2
	3年	2	4	1	3	1	1	2
勤労	1年	2	1	1	2	1	1	1
	2年	2	1	1	2	1	1	2
	3年	2	1	2	2	1	1	1
家族愛、 家庭生活の 充実	1年	1	1	1	1	1	2	2
	2年	1	1	1	1	1	2	1
	3年	1	1	1	1	1	2	2
よりよい学校 生活、集団 生活の充実	1年	1	1	2	1	2	1	1
	2年	1	1	1	1	2	1	1
	3年	1	1	1	1	1	1	1
郷土の伝統と文 化の尊重、郷土 を愛する態度	1年	2	4	1	2	1	1	2
	2年	1	2	1	1	1	1	2
	3年	1	2	1	1	1	1	1
我が国の伝統と 文化の尊重、国 を愛する態度	1年	1	1	1	1	1	1	1
	2年	2	1	1	2	1	1	2
	3年	1	2	1	2	1	1	2
国際理解、 国際貢献	1年	1	1	1	2	2	1	1
	2年	1	3	2	2	1	1	1
	3年	3	2	1	2	3	1	2
生命の尊さ	1年	4	3	3	3	3	3	2
	2年	4	2	3	3	3	3	2
	3年	4	3	3	3	3	3	3
自然愛護	1年	1	1	1	1	1	1	1
	2年	1	1	1	1	2	1	1
	3年	1	2	1	1	1	1	1
感動、 畏敬の念	1年	1	1	1	1	1	1	1
	2年	1	1	1	1	1	1	1
	3年	1	2	1	1	1	1	1
よりよく生き る喜び	1年	2	2	2	2	2	3	2
	2年	3	1	2	2	2	3	3
	3年	2	2	2	2	2	3	3
※ その他	1年	0	0	2	0	0	0	0
	2年	0	0	2	0	0	0	0
	3年	0	0	2	0	0	0	0

※ 「その他」の数は、内容項目が示されていない教材数を表す。

○教材総数に占める四つの視点ごとの割合

視点	学年	東書	教出	光村	日文	学研	廣あかつき	日科
教材総数	1年	37	35	35	35	35	35	37
	2年	37	35	35	35	35	35	37
	3年	37	35	35	35	35	35	37
A 主として自分自身に関すること	1年	19%	23%	17%	17%	23%	23%	16%
	2年	19%	20%	26%	17%	23%	23%	19%
	3年	19%	17%	23%	17%	23%	23%	19%
B 主として人との関わりに関すること	1年	22%	23%	23%	20%	20%	20%	22%
	2年	19%	20%	17%	20%	20%	20%	22%
	3年	19%	14%	20%	17%	23%	20%	19%
C 主として集団や社会との関わりに関すること	1年	38%	34%	34%	43%	37%	34%	46%
	2年	38%	46%	31%	43%	34%	34%	41%
	3年	41%	43%	34%	46%	34%	34%	41%
D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること	1年	22%	20%	20%	20%	20%	23%	16%
	2年	24%	14%	20%	20%	23%	23%	19%
	3年	22%	26%	20%	20%	20%	23%	22%

※ %は、当該学年の教材総数に占める割合を表す。(端数処理のため、合計が100%にならないことがある。また、一つの教材において視点が複数にまたがり両方の視点でカウントしている場合や、教材の内容項目が示されていない場合があるため、合計が100%にならないことがある。)

○各学年で取り上げている題材延べ数に占める題材ごとの割合

題材	学年	東書	教出	光村	日文	学研	廣あかつき	日科
題材のべ数	1年	111	81	86	57	52	42	44
	2年	106	70	89	68	62	61	43
	3年	95	68	88	74	59	54	38
生命の尊厳	1年	9%	6%	3%	9%	10%	12%	7%
	2年	9%	9%	3%	10%	11%	23%	5%
	3年	8%	9%	3%	8%	8%	22%	8%
社会参画	1年	18%	21%	21%	16%	33%	24%	32%
	2年	24%	29%	17%	19%	18%	10%	21%
	3年	26%	29%	24%	19%	29%	17%	16%

題材	学年	東書	教出	光村	日文	学研	廣あかつき	日科
自然	1年	12%	7%	3%	5%	6%	5%	9%
	2年	8%	4%	2%	9%	6%	7%	7%
	3年	5%	6%	2%	3%	3%	6%	8%
伝統と文化	1年	6%	9%	8%	11%	4%	5%	5%
	2年	7%	4%	8%	9%	6%	2%	9%
	3年	5%	9%	7%	8%	7%	4%	11%
先人の伝記	1年	1%	4%	3%	4%	4%	5%	11%
	2年	6%	4%	2%	3%	6%	5%	12%
	3年	2%	6%	5%	9%	7%	6%	18%
スポーツ	1年	5%	5%	0%	4%	8%	5%	7%
	2年	8%	4%	3%	4%	6%	10%	14%
	3年	8%	1%	5%	4%	8%	7%	8%
現代的課題 (いじめ)	1年	15%	14%	14%	16%	12%	10%	7%
	2年	10%	16%	16%	12%	10%	7%	0%
	3年	8%	9%	13%	12%	10%	9%	3%
現代的課題 (情報モラル)	1年	1%	2%	2%	5%	6%	7%	5%
	2年	2%	3%	3%	6%	3%	5%	5%
	3年	4%	1%	1%	4%	3%	4%	3%
現代的課題 (消費者教育、 防災教育等)	1年	10%	5%	1%	7%	2%	5%	2%
	2年	5%	7%	1%	4%	5%	5%	2%
	3年	11%	3%	1%	5%	3%	4%	3%
その他 (上記以外)	1年	23%	27%	43%	25%	17%	24%	16%
	2年	22%	20%	44%	24%	27%	28%	26%
	3年	21%	26%	40%	27%	20%	22%	24%

※ %は、当該学年で取り上げている題材延べ数に占める割合を示す。

※ 現代的課題等：いじめ、情報モラル、消費者教育、防災教育、食育、人権、環境など。